

# 平成27年度事業報告書

自 平成27年4月1日  
至 平成28年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

# も く じ

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	9
3. 人材育成事業	13
4. 啓発普及事業	27
5. 収益事業	47
6. 組織の運営	49

## はじめに

去る4月14日に熊本で発生した震度7の大地震によって、熊本、大分など周辺に多大な被害をもたらした事は報道されているところです。それから1ヶ月以上を経た現在に至っても、住民は余震に怯え、緊急救援、瓦礫処理、住宅再建問題などの課題が山積している状況です。オイスカもこの未曾有の震災に対し、緊急支援金を募り、現地関係者とも協力して支援活動を展開しております。一方で、国内における海岸林再生プロジェクトも、本格的にクロマツの植栽が開始され、今年で3年目を迎えます。平成27年度は10ヘクタール、5万本のクロマツが専門家、地元住民、各種ボランティアの協力によって植林されました。これまでの植栽では約99%の活着率を維持しています。オイスカが過去半世紀以上にわたって取り組んできた活動は、昨今の気候変動に伴う自然災害に対する防災的な役割と同時に、生物多様性を育み、持続可能な地域社会の活性化を図る役割も果たしているといえるでしょう。いずれに致しましても、オイスカに対する海外・国内からの期待は日に日に高まっており、その期待に応えられるよう、さらなる活動を展開して行かなければなりません。

平成27年6月16日の第2回理事会において、新たに中野悦子氏が公益財団法人オイスカ会長として推戴され、承認を受けました。新体制となり、10月に16カ国から66名が出席して国際理事会及びオイスカ国際活動促進議員連盟との共催で、東京において国際協力の日の集いを開催、当日は全国から約250名が参加しました。さらに、第4回目となるマラ公団・オイスカビジネスフォーラムがマレーシア・サラワク州、クチンで開催されました。フォーラムにはオイスカの会員企業を中心に日本、インドネシア、ブルネイ、などから約200名が参加しました。また、11月には、南インド・ケララ州において、日本、マレーシア、フィリピン、インドネシアなど8カ国約300名が参加してアジア太平洋青年フォーラムが開催され、地球規模で発生する環境問題と持続可能な地域開発への取り組みについて活発な討議がなされました。

さて、平成27年度は、①海外開発協力事業、アジア太平洋地域を中心に11カ国において植林等の環境保全活動や現地の研修センターを拠点としての農業を通じた人材育成を実施しました。また、NGO連携無償資金によるミャンマー、インドネシア、フィリピンでの3件の開発協力案件は、ミャンマーが3年目に入り、他の2件は2年目を迎え、これまで育成した人材の活躍、ネットワークを活かした現地への裨益効果が改めて認識される結果が出てきています。②「子

「子供の森」計画事業は36の国と地域において、児童・生徒を対象に、体験型環境教育プログラムの実施と防災・減災につながる植林活動等の環境保全への取り組みを行いました。③人材育成事業では、当法人の発足当初から継続的に取り組んでいる開発途上国からの研修員受け入れの通常研修事業に加え、沖縄をはじめとする農業・工業技能実習生も223名に増え、受け入れ企業・農家からの評価も高く、受入希望が増大しています。④啓発普及事業では、全国組織を通じての様々な啓発活動のほか、海岸林再生プロジェクト10カ年計画も、その5年目に入りました。次年度以降の植栽のためのクロマツ苗木の育苗も、被災地住民と一緒に平行して行っています。また、森のつみ木広場の開催、海外ボランティア派遣、富士山の森づくり、東京フォーラム等の開催・各種国際会議への参加、シンポジウム、セミナー等を実施することができました。

平成27年度は、前年度を大幅に上回る当初の事業計画・予算規模どおり諸々の事業を恙なく実施することができました。財政的に改善の傾向が見え始めておりますことをご報告し、賛助会員の皆様をはじめ、ご協力いただきました全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、オイスカ活動へのさらなるご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成28年6月

公益財団法人オイスカ  
理事長 中野利弘

## 1. 海外開発協力事業

### 総括

外務省の日本 NGO 連携無償資金協力より供与を受けてミャンマー、インドネシア、フィリピンでの3件の開発協力案件は、ミャンマーは3年目、他の2件は2年目を迎え、これまでに育成した人材の活躍、構築されたネットワークやその資金規模から、現地への裨益効果が改めて認識される結果が出てきている。各事業地より関係者らを招聘しての訪日研修もよい学びの機会となっており現地への裨益効果を増幅させている。日本からや現地での専門家による指導も事業地の対象者を刺激し、活動への動機づけを強める結果となっていることは喜ばしい。

他方、企業との社会貢献活動における協働の要請は引き続き増加傾向にあるが、支援企業の経営状況による支援規模の見直し、希望支援先の偏りの調整の必要性など、必ずしも本来のニーズに合致した活動となっていないところもある。可能な限りこれまで通り、すでに住民の組織化ができていて、あるいは組織化が為されやすいところや自立発展性など経験に基づき候補地を提案して必要なところへ支援が振り向けられるように心がけていきたい。

平成28年6月にはオイスカの開発協力がインドでスタートしてから50周年の記念すべき日を迎える。多様化する現代社会において当年度もオイスカの実施する開発協力事業が着実に成果を上げていることが各国からの報告に表れている。歴史におごることなく各国の発展、民間交流ひいては日本の安全保障に少しでも寄与できる活動を続けていきたい。

### 1. プロジェクトの実施成果

#### <自然再生・保全活動>

「ふるさとづくり」の一助となるようサンゴの保全や植林活動といった海中から山上までの切れ目ない自然再生・保全活動を実施し、加えて人々の生業を支えるとともに、次世代の子どもたちへのよりよい環境を残すことも視野に入れて本事業を行った。今年度も、フィジー、パプアニューギニア、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ等の各国で活動を実施した。

#### 1. サンゴ礁保全プロジェクト（フィジー）

観光地としても認知度の高いフィジーにおける特徴的な活動の一つとして推進してきたサンゴ礁保全プロジェクトは、これまで継続的にサンゴ片の定植、天敵であるオニヒトデの除去や共生関係の高い大シャコガイの移設などを行ってきた。MPA（Marine Protected Area・海洋保護区）となっている活動場所を中心に行ってきたが、近年乗馬やビーチゲーム、シュノーケリングなど様々なアクティビティーの新設により海岸があらされてしまった近隣のリゾートホテルからの要請で新たに協働による保全活動を実施している。ホテルの従業員を巻き込み、自主的に活動が続けられるように保全方法の指導などを行っている。また既存のMPAでの活動においては、保全活動において漁業を中心としている居住者の生計が保たれるよう持続可能な野菜の栽培方法を教えるデモファームの活動などを並行して実施し、サンゴ礁保全への動機づけをさらに強める方策を取っている。企業のCSRによる支援での大規模な実施を進めているが、今後どのように自立性を高めていけるかが課題となってくる。

### 2. マングローブ植林プロジェクト（インドネシア、バングラデシュ等、5カ国）

平成 27 年度も、インドネシア、タイ、フィリピン、バングラデシュ、そしてフィジーの 5 カ国において、合計で約 240 ヘクタールに及ぶマングローブ植林活動を行った。気候変動に起因する巨大台風は今や毎年どこかで起きるほどになっている。最近の研究では、地震と気候変動についても関連性があることが言われてきている。だとすると地震による津波も、人類の傲慢さが招いた悲劇ということになる。

それゆえに、マングローブの重要性は 昨年にも増して注目を浴びつつある。例えば、2016 年 2 月 20 日フィジー全土を襲ったサイクロン「ウィンストン」の風速は 82.2 メートルと南半球を襲ったサイクロンとしては史上最大の強さとなった。ところで、被害のひどかったヴィチレブ島北東部では、オイスカが長年マングローブ植林を行ってきたが、多くの陸上の木々、そして家屋が吹き飛ばされたにも関わらず、マングローブはほとんど飛ばされず、内陸部の家屋などの被害軽減に貢献したという。マングローブにも 100 前後の種類があるが、植えているのは、主に、タコ足状の根が張るヤエヤマヒルギ属だ。そして、これこそが、巨大台風や地震の津波に対し偉力を発揮することがわかってきた。まさに気候変動に適応する樹種と言えよう。2013 年 10 月のフィリピン中部を襲った巨大台風の復興支援として、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力の支援を得て、現在レイテ島で植林しているマングローブもこの樹種である。

プロジェクトの多くは、東京海上日動火災保険、住友化学などの企業の他、UA ゼンセンや住友化学労組を始めとした労働組合の支援により支えられている。こうした支援団体は資金支援だけでなく、それぞれ毎年ツアーを組み、現場で植林活動を行っている。27 年度も多数実施されたが、こうした継続的な訪問により、現地住民との交流が生まれ、住民のエンパワーメントにも繋がっている。

### 3. チェンコン森林再生プロジェクト（タイ）

本年度も数件の企業、会員組織からの支援を受けてタイ北部での森林再生プロジェクトに力を入れた。タイ北部では理解のない山岳民族などによる森林の違法伐採が絶えず、保水力の低下した山岳地帯からモンスーン時の降雨が想定を超えて流出し、結果としてバンコク近郊など下流域での洪水を引き起こす結果となっている。タイ南部ラノーンでの住民を主体として取り組んできたコミュニティフォレスト再生プロジェクトをモデルケースとして北部チェンライ県チェンコン地域で実施してきたが、4 年目を終了し良いかたちに住民グループが成長している。一昨年の山火事後、近隣の山火事からの延焼を食い止める目的での防火帯を 5 メートルから 8 メートルに幅を広げ、更に防火用の道具をそろえるなどの対策を取り、昨年度、今年度ともに山火事の被害が出ていない。住民が火災の際にはいち早く駆け付け消火活動に当たるなど、彼ら自身で形成した森を守る意識が高まっている。

住民の意識改革、他団体の巻き込みなど非常に良い形になって来ているため、更にこれをモデルケースとして同じチェンライ県のメースアイ地域での実施、更には NGO 連携無償資金協力での実施へとその活動規模を広げている。

### <海外人材育成>

オイスカ独自の、指導者と研修生が寝食を共にしながら規律を重んじた農業研修をアジア太平洋地域を中心とした各国の研修センターで実施している本事業であるが、平成 27 年度も、全 8 カ国で合計 660 名ほどの農村青年の人材育成活動を行った。農村地域のリーダーとして研修後も活躍できるよう、技術だけでなく精神的に自立した人材の育成に努め、

研修修了生たちは各国で高い評価を得ている。

フィリピンのネグロス島にあるバゴ研修センターは数あるオイスカの研修施設の中でも開設から 40 年近くの歴史を有する経験豊富なセンターで、地域への多大な貢献もあり、今年 2 月、所在地であるバゴ市から市制 50 周年記念セレモニーにおいて特別表彰を受けた。政府の近年の方針である有機農業の普及に予てから先駆的に取り組んでおり、政策の波に乗って地域からの要請も増加している。毎年 300 名を超える外部からの視察者もあり、同様に地場産業の育成に貢献している養蚕プロジェクトとともに大いに注目を集めている。

また、ミャンマーにおいては、本事業の総括においても言及した日本 NGO 連携支援無償資金協力により研修センター施設の一部改修、増設を実施したことで従来の食品加工施設よりも格段に衛生環境の向上した研修を実施することが可能となり、都市部への流通経路さえ確保されれば品質的にも十分消費者の目に適う製品の生産に向けた研修が可能となった。次年度に迎える研修センター設立 20 周年に向けて弾みのつくステップとすることができた。

### <持続可能な産業の開発／促進活動>

農村地域の開発、環境保全には、そうした活動がいかにもその後の生計向上につながるかがポイントとなる。そのため「ふるさと」づくりにおける持続可能な産業の育成は不可欠で、当法人が重きを置く所以である。途上国の農村地域にいきなり先進国のビジネスモデルを持ち込んでも成功するものでないことは明白で、長期間に及ぶ現地での経験から、技術のギャップを埋めるなどの適正化が必要となる。多様化する現代においては各方面におけるニーズもさまざまであり、生産者と支援者や消費者を結びつける役割としてのわれわれのような NGO の存在は、お互いのニーズを把握している点において優位に働く。こうしたマッチングを助けることにより開発途上地域の人々に裨益する産業を逆に生み出していくような動きが望まれている。本年度もいくつかの試みが各国で進められた。そのうちの二つを紹介する。

- 主婦の能力強化と地域の生活改善・生計向上支援事業（インドネシア）

インドネシア国内でも開発から取り残されているとされる西ジャワ州スカブミ県チクンバル郡の農村の主婦を対象として、その組織化とグループへの家庭菜園指導やその生産物を活用した食品加工技術を習得し、販売可能な製品として生産してもらうことにより家庭の生計向上に資することを目指し、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力にて実施した。

先行事業により成功への手ごたえはあったが、グループの数が相当数に増えたことで各グループ間での競争なども生まれ良い方向に作用した一方、配偶者の理解を得るように配慮をしたがうまくいかずに、活動から脱落するものも少数ではあるが見受けられた。全体としてはこれまで家庭内でしか活動の場を見いだせなかったイスラム圏の主婦が、本事業により生き生きとして外とのつながりを楽しむようになり、積極性が出てきたことは評価できると考える。

- 養鶏・養豚による持続可能な生計向上事業（ミャンマー）

日本 NGO 連携無償資金協力にて実施中の事業で、ミャンマー中部乾燥地帯の貧困村の受益者に子豚やヒヨコを配り、簡易な養鶏・養豚による収入増を促す取り組みである。対象の住民に普及の拠点であるオイスカ研修センターにてワークショップを行った後、実際に子豚、ヒヨコを配り、簡易豚舎、簡易鶏舎用の資材も提供した。また、提供後はどれほどの収入増に繋がっているかを調査し、その裨益効果を見極めた。成績の悪い受益者にはフォローアップとして追加で重点的に指導を行った。特にエサの作り方、与え方、寒さ対策、疾病対策、犬などの被害を防ぐ方法などを住民とともに考え、指導した。どの住民も支援に感謝しており、初期投資以外は自助努力での事業展開を考えている。

<災害支援>

1. ネパール地震緊急復興支援

2015年4月25日、ネパールの首都カトマンズ北西で起きた大地震は、カトマンズ盆地と周辺の村々の人々を中心に家屋倒壊、土砂崩れなど甚大な被害をもたらした。これを受けて、オイスカでも国内で募金を呼び掛けるとともに、現地のローカルNGOが行う医療活動のサポートを行った。また、今後の復興へ向けて被災地バクタプールの学校生徒と就学支援などを行うべく準備を進めた。

2. ミャンマー洪水緊急復興支援

2015年7月末に発生したミャンマーでのモンスーンによる数週間にわたる降雨は深刻な洪水を引き起こし、その被害は甚大で、オイスカは被災者に対し緊急支援として、米や油の配給、炊き出しなどを実施した。オイスカの活動拠点である中部乾燥地帯のイエサジョ郡の3村の1,000戸ほどを対象に実施し、被災者から大変喜ばれた。

<調査研究・専門家・指導員派遣>

1. タイ・環境保全生計向上プロジェクト事前調査

期 間：平成27年8月11日～16日

派遣国：タイ

派遣者：森田 章、廣瀬尚國

内 容：

平成28年度事業として外務省NGO連携無償資金協力事業を新規に実施するにあたり、その事前調査として、海外事業部職員2名を派遣した。

タイ北部チェンライ県では山岳民族が暮らす地域を中心に焼畑などを原因とする森林火災のよる煙害に悩まされており、その結果として引き起こされる森林の減少はこれら地域を源流とする河川の流域での洪水を引き起こしている。解決策として山岳民族を中心とする地域での植林活動と付随して住民への生計向上の手段を講じることが有効と考え、案件形成を行った。先行事業として植林や一部の生計向上支援事業もすでに実施しており、タイ政府としてもこうした森林破壊への対策を重要課題の一つととらえていることもあり、比較的スムーズに公的資金を導入できると判断し、住民への聞き取り、現地カウンターパートとの協議を経て3か所の村落を選定し外務省の案件として申請するよう準備を進めることになった。

2. ミャンマー 研修センター新設調査

期 間：平成27年7月31日～9月30日

派遣者：岡村郁男

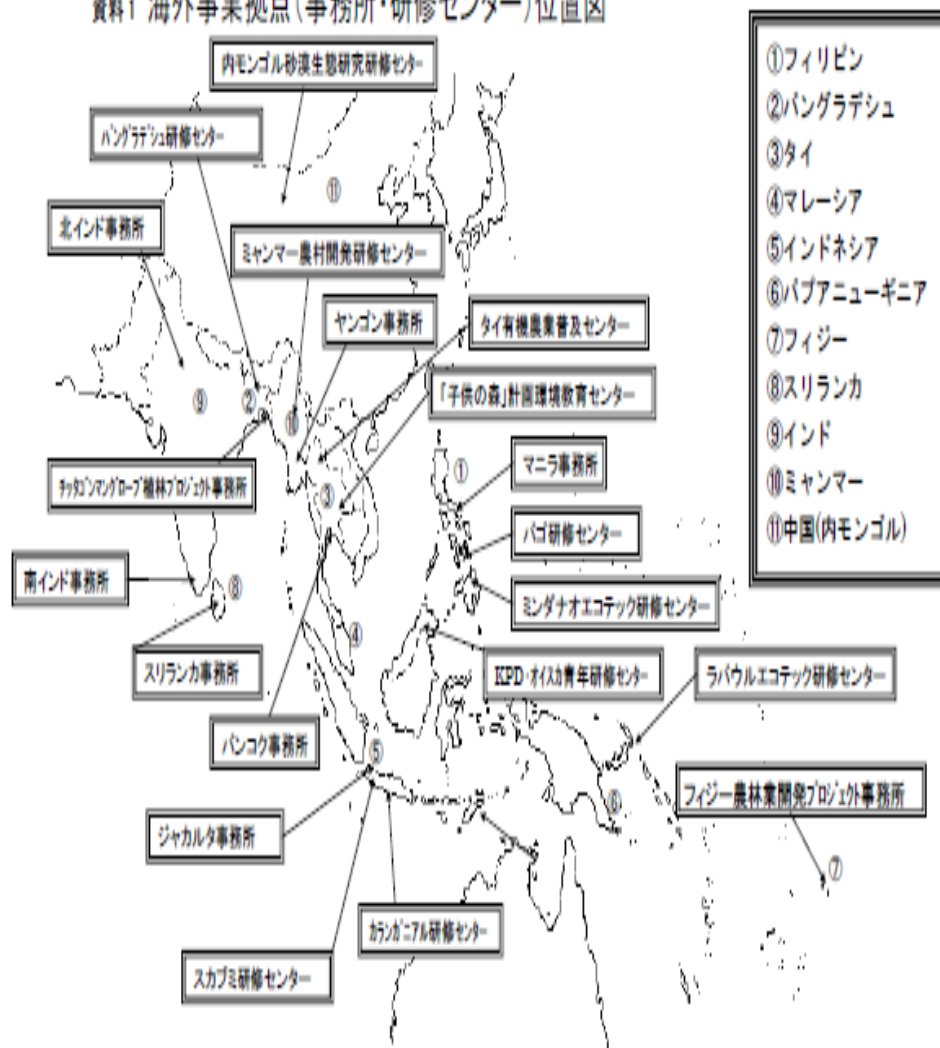
内 容：

平成28年度より始動する予定のミャンマーにおける第二研修センター（仮称：チャウマジ研修センター）の開設予定地（マンダレー管区ピョーゴエ郡）での設置可能性調査としてベテランの農業専門家を派遣し、予定地での圃場、研修生やスタッフ寮、鶏舎や豚舎などの建物の配置、関連する施設の構成などについて検討した。予定地は前回の調査時に、カウンターパートであるミャンマー政府農業灌漑省農業局から提示のあった4か所のうちの1か所に絞られた場所で農業局所有の圃場内にあり、その一角の提供を受けることとな



っていたが、今回その中でも水利条件の良い土地を選ぶことができ、農業局との協約の調印まで済ませることができた。畜産や近隣で入手可能な有機物による発酵肥料を活用した有機栽培による現地種や日本種の水稲などに可能性があることを見出し、首都ネピドーへのアクセスも考慮したうえでの流通にも活路が見いだせると考えられる。今後の展開が見通せるような調査となった。

資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



## 資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
バングラデシュ		
1	小杉 辰雄	農業技術指導・運営管理
インドネシア		
2	中垣 豊	農業技術指導・運営管理
3	中垣 アダ	調整・渉外
ミャンマー		
4	木附 文化	運営管理
5	水口 知香	調整・渉外
フィリピン		
6	渡辺 重美	運営管理
7	石橋 幸裕	運営管理
8	渡辺 洋地	調整・渉外
タイ		
9	春日 智実	運営管理
パプアニューギニア		
10	荏原 美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
11	ジョセリン マクンハイ	調整・渉外
12	ロダ ガワン	調整・渉外

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	15	11
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	4	-
1	インド	南インド事務所	28	-
2		北インド事務所	8	-
1	インドネシア	スカブミ研修センター	63	265
2		カラングニアル研修センター	10	144
3		ジャカルタ事務所	1	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	15	15
1	ミャンマー	ミャンマー農林業研修センター	29	19
2		ヤンゴン事務所	1	-
1	フィリピン	マニラ事務所	3	1
2		バゴ研修センター	24	19
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	-
4		バラワン研修センター	2	3
5		ミンダナオ・エコテック研修センター	2	-
6		ダバオ研修センター	12	10
7		ルクバン研修センター	6	1
8		アブラ農林業研修センター	3	14
9		ヌエバエシハ研修センター	6	3
1	スリランカ	スリランカ事務所	6	-
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト (チェンライ)	1	-
2		マングローブ・プロジェクト (ラノー)	1	-
3		「子供の森」計画環境保護センター (スリン)	1	-
4		「子供の森」計画 (コンケン)	1	-
5		バンコク事務所	6	-
1	カンボジア	カンボジア事務所	6	2
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	7	30
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	21	126
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	6	-
合計			290	663

\*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

## 2. 「子供の森」計画事業

### 1. 総括

平成 27 年度は、「子供の森」計画（以下、CFP）の事業開始 24 年目、28 年度で 25 周年を迎える。子どもたちが木を植えて育てて 25 年。四半世紀にわたる活動の中、スタート時に小学生だった子どもたちは現在大人となり、家庭で、そして地域で活躍し、次の世代の子どもたちに環境を守る必要性や森の大切さについて伝えている。このような持続可能な取り組みへつながるよう、植林活動のみではなく、地域への継続的なセミナーの開催等、フォローアップにも力を入れた一年であった。

また、前年に引き続き、近年特に意識づけを強化している生物多様性保全の取り組みに加え、世界各地で重要課題となっている自然災害に対し、防災・減災につながる植林活動の意識啓発の促進、また農業やリサイクル活動など自然と共生する豊かなふるさとづくりを目指した取り組みを拡げることができた。さらに、今後の新しい地域への展開方法として、ベトナムにおいて大学機関と協働で「子供の森」計画をスタートさせ、指導者育成とあわせ子どもたちへの環境学習・環境保全活動が実施できる手法も模索し始めた。

「子供の森」計画の活動国としては、平成 27 年度末までにベトナムが新たに加わり、世界 36 の国と地域へ拡げることができた。その中で平成 27 年度は特に現地よりの要望が大きく活動資金が不足している、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、ケニア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、中国、ベトナムの国々で重点的に事業の支援・展開を行い、各国各地域のニーズに基づき子どもたちとともに森づくり活動や環境教育活動、環境保全活動の支援を行った。またその他の国においても、情報共有・連携を行い各国の活動のさらなる継続・発展に努めた。特にメキシコにおいては「子供の森」計画の新しい取り組みとしてコーディネーターの育成や日系社会とのつながりなども意識した活動展開などに協力した。

また、これらの活動国の要望を支えるために日本国内においての啓発活動や情報提供・交流活動等により日本と現地をつなぐ活動にも力を入れて、海外からの子ども招聘を通じた交流事業や報告会、25 周年へ向けたカレンダー作成などの啓発資料作成・配付を実施した。

平成 27 年度（2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日）の「子供の森」計画支援口数による支援（6,580 口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金やベルマークなど合わせた寄附金総額は 44,323,497 円、さらに企業及び個人からいただいたグローバル「子供の森」基金の増資額は 194,374 円となった。

### 2. 各プロジェクト実施成果

#### ① 各国で継続的に森づくりや環境教育を着実に実施。森づくりや環境教育活動を深め、子どもたちによる豊かな“ふるさとづくり”活動の促進

各国各地域で昨年度に引き続き森づくり活動や環境教育活動が進められた。特に活動期間が長い地域においては、木陰ができ子どもたちが心地よく学習する空間ができたり、花や虫が観察されるようになり、果樹など直接的な恩恵が子どもたちにももたらされるようになっている。そのような成果とともに、子どもたち自身が中心となり地域へ働きかけを行うなど、子どもたちの自主性が育った成果も見られている。

また活動内容も植林と併せ、有機農業やハーブの活用、木酢液づくり手法等を子どもたちに教えるなど、自然との共生手法や伝統的な文化を残し次の世代へ伝えていく活動も推進された。

平成 27 年度に新しく始めた活動としては、積水ハウスマッチングプログラムによるタイ・スリン県「子どもたちの植林活動支援を通じたふるさと再生プロジェクト」や、トヨタ環境活動助成プログラムによるスリランカ「多様性豊かなふるさとを守り育てる苗床づくりと環境教育プロジェクト」などが挙げられる。どちらのプログラムも、「子供の森」計

画の内容をさらに深め、広範囲にて実施できるよう、子どもたちの参画や生物多様性樹種の苗木づくり等に力を入れたものである。

このように各国地域において子どもたちやその地域に必要な知識や技術を、対象者の幅を広めながら実施することに努めた。

また、平成 21 年より国連生物多様性条約事務局と基本協約を結び参画促進協力をしている、同事務局が呼び掛ける「グリーンウェイブ」（国連生物多様性の日を中心に世界中の青少年が一斉に植林等の生物多様性を保全もしくは学習するアクションを起こす活動）には、平成 27 年度も「子供の森」計画参加校を中心に各国から積極的に参加し、オイスカ全体として 240 の学校や団体が参加し、オイスカがグリーンウェイブに参画をはじめてからの参加者累計が 20 カ国約 57,055 人となった。

### ② 各国で子どもたち自身が共に学び合うワークショップや指導者育成を促進

各地で活動の促進を重ねるごとに、それぞれの活動の成果や経験を共有しながら、ともに学び協力・連携しあうことが、今後のプロジェクトの発展には不可欠となってきている。そこで各国各地で複数の学校の子どもたちを一同に集め共に学び合うワークショップや、複数の学校教員や行政関係者を集めた指導対象のセミナー、また本プロジェクトの各地の運営を担うコーディネーターの育成のためのワークショップなどを行った。一例としては、平成 27 年 12 月にミャンマーにて周辺学校児童生徒を集めたセミナーを実施。環境に関する講義に加え、野外での自然観察や農業などの生態系のつながりの学習など、子どもたちが主体的に参加できるプログラムを実施し、子どもたち及び指導者たちが自ら学びそして他者と経験や知識を共有しあう機会とすることができた。また平成 28 年 1 月には、オイスカスリランカ事務所で「子供の森」計画学校関係者・コーディネーター研修会を実施。活動学校の学校長はじめ学校関係者とコーディネーターを集め、専門家からの講義等も交えながら現状のプロジェクトの問題点や今後の活動展開について意見交換等を行った。このようなワークショップやセミナーは、他にもタイ、インドネシア、フィジー、フィリピン、インドなどの国々でも実施した。

また国を超えた学びの場として、平成 27 年 11 月には、インドにて開催されたアジア・太平洋青年フォーラムの関連行事として、インターナショナル・コーディネーター研修会を実施。8 か国のコーディネーターが集まり、各国の取り組みを共有した後、これからの時代に必要とされる「子供の森」計画の活動展開について議論し、今後の各国の活動において応用していくことを約束し合った。

### ③ 6 カ国から児童生徒代表を招聘し「子ども親善大使事業」を実施。国際理解・持続可能な開発のためのプログラムとしても共有

愛・地球博成果継承事業の助成金等を活用しながら、インド、マレーシア、ミャンマー、パプアニューギニア、タイ、インドネシアの 6 カ国から「子供の森」計画に取り組んでいる小中学生及び環境保全活動の指導者計 19 名を日本へ招聘し、「子供の森」計画の活動成果の共有や、日本の子どもたちとの交流事業、そして日本の環境保全の取り組み等の学習を行った。

<招聘日程・プログラム実施場所>

第一回目：インド、マレーシア、ミャンマー、パプアニューギニア

(2015 年 7 月 30 日～8 月 9 日) 場所：東京、山梨、千葉、北海道

第二回目：タイ・インドネシア

(2015 年 10 月 19 日～31 日) 場所：大阪、奈良、岐阜、愛知、静岡、東京

特に 27 年度は、日本の子どもたちとの交流プログラムに、オイスカの国内の森づくり現場等を活用しながら、日本の森づくりや自然との共生文化、生物多様性等を学ぶ機会を設け、日本及び海外の子どもたちが双方に「森」や「環境」そして持続可能な社会づくりについて学ぶ機会をより効果的なものにする事ができた。

## ④ 広報・啓発活動

平成 27 年度は、次年度が「子供の森」計画プロジェクト開始 25 周年を迎えるということもあり、これまでの成果を重視した広報物の作成等に特に力を入れた。ラブグリーンニュースの後期発行分を 2016 年 1 月開始のカレンダーの発行に替える試みも行い、支援者からは 25 年間の活動成果や国の広がりが見ることができると好評であった。

また活動資金協力の呼びかけとしては、引き続きパンフレット等の配付と併せ、古本を通じた寄付制度の定着を目指した各地域への働きかけや、広報用募金箱の作成も行った。

国連等の国際機関や他団体との連携に関しても引き続き強化・深化を目指し、国連関連機関の呼びかけるグリーンウェイブ活動や国際森林デーの記念行事の協働実施や同機関への情報発信を行った。

## 3. 平成 27 年度「子供の森」計画 国別植林実績

No.	活動実施国名	2015年度		1991年～ 累積		参加校数総計	2015年 新規校数
		植林本数	植林面積(ha)	累計本数	累計面積(ha)		
1	バングラデシュ	1,000	0.40	80,574	65.62	224	2
2	中国(内モンゴル)	3,700	1.60	33,310	17.10	13	2
3	カンボジア	1,030	1.70	4,060	6.78	16	5
4	フィジー	2,494	0.25	780,291	568.57	59	1
5	インド	51,490	62.92	1,705,086	1124.31	1,952	4
6	インドネシア	15,684	12.51	305,761	461.27	365	14
7	マレーシア	8,776	11.69	87,825	79.63	219	60
8	ミャンマー	315	0.10	27,587	12.72	67	0
9	フィリピン	15,793	4.53	2,790,361	1052.44	1,077	17
10	パプアニューギニア	1,030	0.50	76,850	48.98	63	2
11	スリランカ	817	0.64	508,964	426.39	320	3
12	タイ	8,030	9.30	591,995	401.54	200	14
	*その他の国・地域	2,600	2.00	124,351	100.48	259	18
	合計	112,759	108.14	7,117,015	4365.83	4,834	142

累計実績：世界 36 の国と地域の 4,834 校で実施

※上記データは 2016 年 3 月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値

※ その他の国・地域：

アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム

#### 4. 調査研究、専門家、指導員派遣

1)

期 間：平成 27 年 5 月 13 日～5 月 17 日

派遣国：インド

派遣者：高田絵美

内 容：支援グループの視察対応、業務調整

2)

期 間：平成 27 年 7 月 30 日～8 月 3 日

派遣国：カンボジア

派遣者：春日智実

内 容：支援グループのツアー調整、対応、業務調整

3)

期 間：平成 27 年 9 月 26 日～10 月 1 日

派遣国：ベトナム

派遣者：高田絵美

内 容：「子供の森」計画実施補助、関係機関との会議出席

4)

期 間：平成 27 年 11 月 19 日～27 日

派遣国：インド

派遣者：高田絵美、諸江葉月、川村康恵

内 容：アジア太平洋青年フォーラムの実施、インターナショナル・コーディネーター研修実施

5)

期 間：平成 28 年 1 月 22 日～29 日：森田

平成 28 年 1 月 22 日～2 月 1 日：諸江

平成 28 年 1 月 24 日～30 日：清藤

派遣国：スリランカ

派遣者：森田章、清藤城宏、諸江葉月

内 容：トヨタ環境活動助成プログラム助成事業の調査・モニタリング、研修会実施、業務調整



### 3. 人材育成事業

#### 総括

オイスカの目指す国づくりの基本は「人づくり」であるという基本的考えの下、全国各地の研修現場においては、指導員並びの研修生が共に向いあい、同じ屋根の下で寝食を共にしながら研修目的達成のため真剣に取り組んだ一年であった。

外務省の NGO 事業補助金事業の一環として四国研修センターで実施した「国際協力関連事業・地域開発コース」については地元農園など関係機関や地域の方々の協力も得て、有益な研修が実施できた。JICA から委託され、同じく四国研修センターで実施した「青年研修/農村振興コース」についても短期間ではあったが充実した成果が得られた。

また、民間企業の国際貢献の一環としてスタートした三菱 UFJ フィナンシャルグループ様支援による「環境保全型農業の指導者育成研修コース」については、研修期間中に企業側の関係者によります研修の視察や研修生との交流を通じて、オイスカの研修や活動に理解を深めていただいた。今後は帰国した研修生のフォローアップにも力を入れ、研修成果を支援者の皆様へ報告していきたい。

#### 1) 一般研修事業

オイスカの実施する「一般研修」コースは、中部日本、西日本、四国研修センターで行われている「農業技術」、「農業指導 OB」コースと、「家政」、「国際ボランティア」の分野に分かれて実施した。各コースの研修生は、海外でのオイスカプロジェクトのリーダーとして、または地域における農村開発のリーダーとして、活躍すべく大きな期待と責任が課せられています。

農業分野においては、有機農業技術や栽培管理技術の習得、そして土づくりを基本とした持続可能な農業形態について現場での経験を参考にしながら習得し、その経験を基にそれぞれの地域に合った農業形態を考え、それを実践していただくの行動力や応用力を身に付けていけるようなカリキュラムで構成して実施した。また、家政の分野においては、調理実習、栄養学、洋裁、華道等の研修に加えて、各地域で展開されている特産品や加工品の開発現場を見学し、それを参考にしながら地域開発の在り方について理解を深めていく機会を設けた。限られた研修期間の中で、これらの条件を習得することは非常に困難なことではあるが、常に目的意識を持ちながら、母国における様々な問題や課題と向き合いながら研修に取り組むことで、より有意義な経験を積むことが出来るように指導に努めた。今後も海外の現場と情報を共有しながら、研修生の帰国後における活躍の舞台を一緒になって築いていけるように、努力していきたい。

人材育成事業

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

研修科目 \ 国 別	カンボジア	フィリピン	インドネシア	マレーシア	モンゴル	パプア・ニュー・ギニア	フィリピン	スリランカ	ベトナム	インド（チベット）	合計
国際協力ボランティア		1	1		1		2				5
農業技術	1	1	1				2		1	1	7
家政			1	3			2	1			7
農業指導 OB			1			1	2				4
合計	1	2	4	3	1	1	8	1	1	1	23

② 本年度研修員氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
西日本研修センター(8名)				
1	Mr. Setyo Budi Utomo	インドネシア	農業指導 OB	2014.4～2015.7
2	Mr. Arnel Santos Tabamo	フィリピン	農業指導 OB	2014.4～2016.3
3	Mr. Dimas Prabu Poetro	インドネシア	国際協力 ボランティア	2015.2～2017.2
4	Mr. Tuvdenndorj Tumendemberel	モンゴル	国際協力 ボランティア	2015.7～2017.2
5	Ms. Carmela laila Estorninos T.	フィリピン	家政科研修	2014.4～2016.3
6	Ms. Intan Munirah Binti Zaim	マレーシア	家政科研修	2015.4～2017.3
7	Mr. Seng Tola	カンボジア	農業技術	2015.4～2016.3
8	Mr. Tenzin Phuntsok	インド(チベット)	農業技術	2015.4～2016.3
中部研修センター(12名)				
9	Mr. Garry Ella De Veluz	フィリピン	農業指導 OB	2014.3～2016.2
10	Ms. Taoba Lute Ratu	フィジー	国際協力 ボランティア	2015.2～2017.2
11	Ms. Anna Marie Bulanon Peruelo	フィリピン	国際協力 ボランティア	2015.2～2017.2
12	Ms. Anna Joy Ordinanza Sales	フィリピン	家政科研修	2014.1～2016.1
13	Ms. Susette D. Semuil	マレーシア	家政科研修	2014.8～2016.8
14	Ms. Gita Desvira Putri	インドネシア	家政科研修	2015.10～2017.10
15	Ms. Amarakoon Mudiyansele Gayani Udhesika Amarakoon	スリランカ	家政科研修	2016.1～2018.1
16	Ms. Le Huyen Trang	ベトナム	農業技術	2014.12～2015.11
17	Mr. Joseva Vurabere Nasese	フィジー	農業技術	2015.3～2016.2
18	Ms. Umi Fatmawati	インドネシア	農業技術	2015.3～2016.2
19	Mr. Marjones Mahumoc Pit	フィリピン	農業技術	2015.3～2016.2
20	Mr. Jumar Barona Birginias	フィリピン	農業技術	2015.3～2016.2
四国研修センター(3名)				
21	Mr. Gabriel Kopel	PNG	農業指導 OB	2015.4～2017.4
22	Ms. Mariedeth Abustan Florida	フィリピン	国際協力 ボランティア	2013.5～2015.5
23	Ms. Glenda Johnybel	マレーシア	家政科研修	2014.2～2016.2

③ 環境保全型有機農業指導者育成研修

環境保全型の農業を広く普及させるためには、各地域で指導にあたる人材の育成が急務となる。手始めとして持続可能な環境保全型農業を身に付け地域のリーダーとなりうる人材のキャパシティー・ビルディングを行い、国の基盤である農業を如何に持続可能なものにしていくか、農業を取り巻く環境をいかに保全していくか、今後の大きな課題となっている。本研修コースは、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）の支援と協力で平成27年4月11日から平成28年3月11日までの期間、8カ国から10名の研修員を西日本研修センターで受入れ、環境保全に配慮しながら進めていく有機農業の技術等、特に土づくりを基本とした各国でも応用できる農業形態の指導をすすめ、自国における村づくり、持続可能な農業を基本とした地域開発に貢献できる人材の育成を目的として実施した。

No	氏名	国名
1	Ms. Mahamuda Akter	バングラデシュ
2	Mr. Ork Yong	カンボジア
3	Mr. Rusiate Kalavo Vaganalau	フィジー
4	Ms. Dea Resty Rahmawati	インドネシア
5	Mr. Fohrani Bin Launi	マレーシア
6	Ms. Munkhsaikhan Delgersaikhan	モンゴル
7	Ms. Oyunjargal Tseyen-Oidov	モンゴル
8	Ms. Ei Shwe Sin Win	ミャンマー
9	Mr. Christopher George Soka	パプアニューギニア
10	Mr. Modesthus Jordan Domori	パプアニューギニア

④ 研修員送出し機関

本年度における研修員の現地送出し機関は下記の通りである。

- |    |           |                                  |
|----|-----------|----------------------------------|
| 1. | インドネシア    | オイスカ・スカブミ研修センター                  |
| 2. | マレーシア     | オイスカ・マレーシア総局<br>KPD／オイスカ青年研修センター |
| 3. | パプアニューギニア | オイスカ・ラバウル・エコテック研修センター            |
| 4. | カンボジア     | オイスカ・カンボジア総局                     |
| 5. | ミャンマー     | オイスカ・ミャンマー総局                     |
| 6. | モンゴル      | オイスカ・モンゴル総局                      |
| 7. | フィジー      | オイスカ・フィジー総局                      |
| 8. | バングラデシュ   | オイスカ・バングラデシュ総局                   |

## 2. 技能実習事業

### ① 農業技能

オイスカの国内研修センター内で実施される研修課目以外に、外部の農家等に委託して行う技能実習を現地送り出し機関の強い要望により実施した。技能実習生は入国後、国内研修センターで約2カ月間の日本語・生活習慣等を身につける集団講習修了後、それぞれの委託先へ配属される。実際の現場で技術・技能を身につけることができ、実習修了後母国に帰り即戦力の人材として期待されることが本事業の大きな特色である。これらの農業技術の習得は地域開発の即戦力的な人材として農村社会の振興に寄与している。

本年度も引き続き沖縄県の委託事業として受け入れた技能実習生もいるため、合計136名が技能実習を行った。また、新たにミャンマーが送り出し国として加わった。オイスカ・ミャンマー農林業研修センターのOB養豚研修生が実習に励んでいる。民主化を推し進める同国からも今後受け入れの増加が期待されている。

	氏名	国名	委託先	期間
<b>耕種農業施設園芸(15名)</b>				
1	Mr. Hester Vilar Tatoy	フィリピン	サンプラント	2012.8～2015.8
2	Mr. Rudy Soliven Pagaduan	フィリピン	サンプラント	2012.8～2015.8
3	Mr. Castillo Rowen John Magno	フィリピン	サンプラント	2013.12～2016.12
4	Mr. Alpanta Junriks Gaviola	フィリピン	サンプラント	2013.12～2016.12
5	Mr. Fahmy Mauludin Abdullah	インドネシア	石本園芸	2013.2～2016.2
6	Mr. Abadilla Eligar Aboyo	フィリピン	サンプラント	2014.1～2017.1
7	Mr. Dewa Putu Purna	インドネシア	仲吉 勝弘	2014.1～2017.1
8	Mr. Pengli Alimbalu	インドネシア	仲吉 勝弘	2014.1～2017.1
9	Mr. Ahmad	インドネシア	大城 昌栄	2014.8～2017.8
10	Mr. Arif Rahman Hakim	インドネシア	大城 昌栄	2014.8～2017.8
11	Mr. Hewa Gamage Anura Mendis Cooray Gunasekara	スリランカ	(株)ナフト	2014.9～2017.9
12	Mr. Kankanamge Buddhika Nishantha Kumara Wijethissa	スリランカ	(株)ナフト	2014.9～2017.9
13	Mr. Supriadi Patrio	インドネシア	仲吉 勝弘	2015.3～2018.3
14	Mr. Ahmad Rofiq	インドネシア	仲吉 勝弘	2015.3～2018.3
15	Mr. Noprizal	インドネシア	石本園芸	2015.8～2018.8
<b>耕種農業畑作・野菜(109名)</b>				
16	Mr. Hildie Bin Milan	マレーシア	竹内 章雄	2012.5.～2015.5
17	Mr. Abaricia Christian Santos	フィリピン	沖縄ファーム	2012.8～2015.8
18	Mr. Osorio Astley Bryan Tabigne	フィリピン	當山農場	2012.8～2015.8
19	Mr. Sancho Yussel Abelgas	フィリピン	沖縄ファーム	2012.10～2015.10
20	Mr. Terredano Bendio Ternio	フィリピン	山本一守	2013.3～2016.3
21	Mr. Ari Baskara	インドネシア	竹田巽	2013.10～2016.10
22	Mr. Suerte Francisco Cabansag	フィリピン	當山農場	2013.12～2016.12
23	Mr. Jamili Larry Toleco	フィリピン	當山農場	2013.12～2016.12
24	Mr. I Dewa Gede Wira Ekadinata	インドネシア	吉浜 清裕	2014.1～2017.1
25	Mr. I Wayan Sudanta	インドネシア	伊良部 友晃	2014.1～2017.1
26	Mr. I Wayan Sugitha	インドネシア	伊良部 友晃	2014.1～2017.1

## 人材育成事業

27	Mr. I Made Yudiana	インドネシア	大城 清助	2014.1～2017.1
28	Mr. I Kadek Wahyu Sugiarta	インドネシア	大城 清助	2014.1～2017.1
29	Mr. Nyoman Suryana	インドネシア	神里 賢	2014.1～2017.1
30	Mr. I Wayan Putu Santika	インドネシア	金城 辰男	2014.1～2017.1
31	Mr. Ali Shofiyadi	インドネシア	金城 孝	2014.1～2017.1
32	Mr. Sandi Irawan	インドネシア	金城 敏	2014.1～2017.1
33	Mr. Yoyo Sunaryo	インドネシア	金城 直樹	2014.1～2017.1
34	Mr. Made Darmawan	インドネシア	玉城 忍	2014.1～2017.1
35	Mr. Dewa Nyoman Adi Adnyana	インドネシア	玉城 哲弘	2014.1～2017.1
36	Mr. Dian Artha Pramana	インドネシア	玉城 哲弘	2014.1～2017.1
37	Mr. I Made Suastawan	インドネシア	波平 渡	2014.1～2017.1
38	Mr. Ursula Miljune Lizare	フィリピン	垣花 恵忠	2014.1～2017.1
39	Mr. Lozada Vexel Amar	フィリピン	金川 均	2014.1～2017.1
40	Mr. Permias Bobby Mark Duca	フィリピン	沖山 聖	2014.1～2017.1
41	Mr. Labargan Joey Cagalitan	フィリピン	吉浜 清裕	2014.1～2017.1
42	Mr. Tabobo Jose Roger Labioso	フィリピン	金城 孝	2014.1～2017.1
43	Mr. Khaerul Fahmi	インドネシア	神里 賢	2014.8～2017.8
44	Mr. Nur Rahmat	インドネシア	金城 敏	2014.8～2017.8
45	Mr. Muhamat Habibi	インドネシア	金城 直樹	2014.8～2017.8
46	Mr. Hendro Pramono	インドネシア	玉城 忍	2014.8～2017.8
47	Mr. Arif Erfan Efendi	インドネシア	仲西 栄二	2014.8～2017.8
48	Mr. Saepurrohman	インドネシア	仲西 栄二	2014.8～2017.8
49	Mr. Arie Hermawan	インドネシア	玉城 直也	2014.8～2017.8
50	Mr. Agung Ginanjar	インドネシア	玉城 直也	2014.8～2017.8
51	Mr. Komang Agus Susila Jaya	インドネシア	新垣 修	2014.8～2017.8
52	Mr. Joko Saloko	インドネシア	新垣 修	2014.8～2017.8
53	Mr. I Putu Susana	インドネシア	長尾 庄淳	2014.8～2017.8
54	Mr. Anak Agung Ngurah Alit Wirasatya	インドネシア	長尾 庄淳	2014.8～2017.8
55	Mr. Puguh Tri Irwanto	インドネシア	大城 篤	2014.8～2017.8
56	Mr. Nanang Mualim Makmun	インドネシア	大城 篤	2014.8～2017.8
57	Mr. Isdan Mariadi	インドネシア	島袋 政信	2014.8～2017.8
58	Ms. Kawai Laila Fatim	インドネシア	島袋 政信	2014.8～2017.8
59	Mr. Asep Basir Ramdani	インドネシア	玉城 盛仁	2014.8～2017.8
60	Mr. Sandi Faridillah	インドネシア	仲地 政次	2014.8～2017.8
61	Ms. Windi Ratnasari	インドネシア	仲地 政次	2014.8～2017.8
62	Mr. Dede Mulyadi	インドネシア	上江洲 実	2014.8～2017.8
63	Mr. Kurniawan	インドネシア	(株)和伊耕産	2014.8～2017.8
64	Mr. Martinus Calvin Suatan	インドネシア	(株)和伊耕産	2014.8～2017.8
65	Mr. Agrian Toji	インドネシア	農業生産法人(有) 南陽花き生産組合	2014.8～2017.8
66	Mr. I Gusti Made Mahayasa	インドネシア	農業生産法人(有) 南陽花き生産組合	2014.8～2017.8
67	Mr. Mostacho Gaujil Oyangorin	フィリピン	浅沼 清	2014.8～2017.8
68	Mr. Vicera Jeffrey Talledo	フィリピン	大城 典一	2014.8～2017.8
69	Mr. Flores Antonio Jr. Sales	フィリピン	金川 均	2014.8～2017.8
70	Mr. Racelis Raymond Nombrefia	フィリピン	沖山 聖	2014.8～2017.8
71	Mr. Gabutero Mark Bendolo	フィリピン	垣花 恵忠	2014.8～2017.8
72	Mr. Gamaarachige Buddhika Ubaya Janaka	スリランカ	沖縄ファーム	2014.8～2017.8
73	Mr. Udaha Napaya Gedara Channa	スリランカ	沖縄ファーム	2014.8～2017.8

	Rukman Bandara			
74	Mr. Wijerathne Palipana Wasala Mudiyanseleage Gihan Chaminda	スリランカ	沖縄ファーム	2014. 8～2017. 8
75	Ms. Kapugedara Samatun Mudiyanseleage Nethmini Prasanthika	スリランカ	玉城 盛仁	2014. 8～2017. 8
76	Ms. Hewa Pannilage Jayaneththi Priyadarshani	スリランカ	上江洲 実	2014. 8～2017. 8
77	Ms. Sooriya Pathiranage Denika	スリランカ	蔵下 良彦	2014. 8～2017. 8
78	Ms. Madurawalage Dona Kaushalya Kumudumali	スリランカ	蔵下 良彦	2014. 8～2017. 8
79	Ms. Amarasinghe Pedige Yamuna Lalanthika	スリランカ	島袋 利幸	2014. 8～2017. 8
80	Mr. Jayasundara Samarakoon Mudiyanseleage Nimal Kumara Rathnayaka	スリランカ	山田 政秀	2014. 8～2017. 8
81	Mr. Ilandari Dewage Amila Chinthaka Premarathna	スリランカ	儀間 勉	2014. 8～2017. 8
82	Mr. Lakshan Romesh Dharmadasa Bandara	スリランカ	比嘉 憲政	2014. 8～2017. 8
83	Mr. Susilo Irawan	インドネシア	中村 伸次	2015. 3～2018. 3
84	Mr. Yusuf Widiyantoro	インドネシア	中村 伸次	2015. 3～2018. 3
85	Mr. Epin Mulyadiana	インドネシア	田場 恒昭	2015. 3～2018. 3
86	Mr. Nazzil Zanari	インドネシア	田場 恒昭	2015. 3～2018. 3
87	Mr. Asep Saefullah Amri	インドネシア	大城 清助	2015. 3～2018. 3
88	Mr. Ali Akbar Yasid	インドネシア	大城 清助	2015. 3～2018. 3
89	Mr. Puji Wahyu Utomo	インドネシア	玉城 哲弘	2015. 3～2018. 3
90	Mr. Agus Salim	インドネシア	玉城 哲弘	2015. 3～2018. 3
91	Mr. Pratanjana Emde Gama	インドネシア	波平 渡	2015. 3～2018. 3
92	Mr. Sumarno	インドネシア	波平 渡	2015. 3～2018. 3
93	Mr. Sabuero Giovanni Ataylor	フィリピン	北日本菅与(株)	2015. 3～2018. 3
94	Mr. Ocumen Joseph Palara	フィリピン	北日本菅与(株)	2015. 3～2018. 3
95	Mr. Amparo Mark Lester De Guia	フィリピン	北日本菅与(株)	2015. 3～2018. 3
96	Mr. Premaratne Malwatte Gedara Janaka Kumara	スリランカ	比嘉 憲司	2015. 3～2018. 3
97	Mr. Rajapaksha Gedara Rohana Kumara	スリランカ	新垣 正則	2015. 3～2018. 3
98	Mr. Mugunumatha Dissanayaka Mudiyanseleage Ravindra Lakmal Dissanayaka	スリランカ	新垣 正則	2015. 3～2018. 3
99	Mr. Silva Asurumunige Neranjan Indika	スリランカ	新垣 進	2015. 3～2018. 3
100	Mr. Wedihitihamilage Rohan Janaka Nuwan	スリランカ	新垣 進	2015. 3～2018. 3
101	Mr. Danallage Nirosan Padma Kumara	スリランカ	宇江城 安勝	2015. 3～2018. 3
102	Mr. Gusthinnadura Sumeda De Silva	スリランカ	外間 年男	2015. 3～2018. 3
103	Mr. Narapiti Mudiyanseleage Sri Sampath Rathnayake Bandara	スリランカ	田場 恒昭	2015. 3～2018. 3
104	Mr. Hewa Bajjamage Wasula Kawinda	スリランカ	田場 恒昭	2015. 3～2018. 3
105	Mr. Rathnayaka Mudiyanseleage Aruna Prabath Thilakarathna	スリランカ	當山農場	2015. 3～2018. 3
106	Mr. Lankathilaka Adikari Mudiyanseleage Chanaka Sajith Kumara	スリランカ	當山農場	2015. 3～2018. 3
107	Mr. Sari Opsus Harjianto	インドネシア	神里 賢	2015. 8～2018. 8
108	Mr. Prayitno	インドネシア	神里 賢	2015. 8～2018. 8
109	Mr. Deni Agus Salim	インドネシア	玉城 忍	2015. 8～2018. 8

## 人材育成事業

110	Mr. Bayu Januardi	インドネシア	金城 直樹	2015.8～2018.8
111	Mr. Rais	インドネシア	(株) 和伊耕産	2015.8～2018.8
112	Mr. Uus Usrofil	インドネシア	(株) 和伊耕産	2015.8～2018.8
113	Mr. Dissanayaka Mudiyansele Sasanga Diyanath Bandara Dissanayaka	スリランカ	(有) 沖縄ファーム	2015.8～2018.8
114	Mr. Gardihewawasam Punchi Hewage Sangeeth Wijayantha PUNCHIHewa	スリランカ	(有) 沖縄ファーム	2015.8～2018.8
115	Mr. Yapa Mudiyansele Selaka Harindra Yapa	スリランカ	(有) 沖縄ファーム	2015.8～2018.8
116	Mr. Dissanayake Mudiyansele Prabath Sudarshana	スリランカ	金川 均	2015.8～2018.8
117	Mr. Wahumpurage Hemantha Wijenayaka	スリランカ	垣花 恵忠	2015.8～2018.8
118	Mr. Hewa Yaddhegige Eranga Sampath Guruge	スリランカ	浅沼 清	2015.8～2018.8
119	Mr. Massalage Don Dilum Arosha Kumarasiri	スリランカ	大城 典一	2015.8～2018.8
120	Mr. Jhon Dennis Hitipeuw	インドネシア	竹内 章雄	2015.12～2018.12
121	Mr. Ballacillo Rowel Artienda	フィリピン	山本一守	2015.12～2018.12
122	Mr. Pataray Cristopher Buendia	フィリピン	北日本菅与(株)	2016.3～2019.3
123	Mr. Seares Reymond Nino	フィリピン	北日本菅与(株)	2016.3～2019.3
124	Mr. Terredano Arnold Jan Ascano	フィリピン	北日本菅与(株)	2016.3～2019.3
<b>畜産農業（養鶏）4名</b>				
125	Mr. Alfian Samuel Panambunan	インドネシア	永井養鶏園	2012.9～2015.9
126	Mr. Idris Shaleh	インドネシア	ヒクチファーム	2014.8～2017.8
127	Mr. Istanto	インドネシア	ヒクチファーム	2015.8～2018.8
128	Mr. Dede Indra	インドネシア	永井養鶏園	2015.10～2018.10
<b>畜産農業（養豚）17名</b>				
129	Mr. Echague Alvin Vincua	フィリピン	トヨタファーム	2013.4. ～2016.4
130	Mr. Vijar Jonirey Raguin	フィリピン	(有) 日向養豚	2013.12～2016.12
131	Mr. Lubandina Jerome Cainoy	フィリピン	(有) 日向養豚	2013.12～2016.12
132	Mr. Florian Petrus	マレーシア	トヨタファーム	2014.6～2017.6
133	Mr. Arnold Alexon	マレーシア	(有) 吉田畜産	2014.6～2017.6
134	Mr. Magala Arnel Tan	フィリピン	(株) 菅与	2014.9～2017.9
135	Mr. Longenos Freddie Juan	フィリピン	(株) 菅与	2014.9～2017.9
136	Mr. Aranga Jerry Palabrica	フィリピン	(株) 菅与	2014.9～2017.9
137	Mr. Sylvester Lewis	フィリピン	トヨタファーム	2015.4～2018.4
138	Mr. Abadiano Jezreel Importante	フィリピン	(株) 菅与	2015.8～2018.8
139	Mr. Buhian James Albos	フィリピン	(株) 菅与	2015.8～2018.8
140	Mr. Tadeo Jhon Jovi Cada	フィリピン	(株) 菅与	2015.9～2018.9
141	Mr. Ardaniel Patrick Jay Valdez	フィリピン	(株) 菅与	2015.9～2018.9
142	Mr. Echipare Cristopher Rombawa	フィリピン	(株) 菅与	2015.9～2018.9
143	Mr. Min Thu	ミャンマー	トヨタファーム	2015.12～2018.12
144	Mr. Zayar Soe	ミャンマー	トヨタファーム	2015.12～2018.12
145	Mr. Talingdan Narciso Balucas	フィリピン	(有) 吉田畜産	2016.2～2019.2
<b>畜産農業（酪農）4名</b>				
146	Mr. Benny Hermanto Nadeak	インドネシア	アイ・アイ・ティ	2012.4～2015.4
147	Mr. Callena Leonardo Jr Cacho	フィリピン	岡牧場	2013.3～2016.3
148	Mr. Maguad Joseph Jr. Salido	フィリピン	アイ・アイ・ティ	2014.8～2017.8
149	Mr. Barbero Ferick Piscien	フィリピン	岡牧場	2015.12～2018.12



【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	スリランカ	合計
耕種農業（施設園芸）	8			5	2	15
耕種農業（畑作・野菜）	56	1		23	29	109
畜産農業（養鶏）	4					4
畜産農業（養豚）		2	2	13		17
畜産農業（酪農）	1			3		4
合計	69	3	2	44	31	149

② 工業技能

開発途上国が産業発展を推し進める中で、先進諸国での当該技術の習得を希望する青年は少なくない。その一方で、日本では頒布されて久しい工業技術も途上国では依然として多くの地域で不足し必要とされている。当法人では、工業技術の領域を広げ、そうした多様なニーズに対応するため、工業分野において技能実習制度を導入している。

また実際の会社組織の一員となることで現場社会の厳しさを身につけることができる。研修現場では評価も高く、委託企業担当者も本事業の趣旨に賛同し積極的に指導して頂き国際協力の現場として担っていただいている。

No	氏名	国名	委託先名	期間
<b>印刷(1名)</b>				
1	Mr. Mohammad Deen	バングラデシュ	プリテック(株)	2012.6～2015.6
<b>機械加工(7名)</b>				
2	Mr. Bingcang Darwin Compania	フィリピン	㈱平井工業	2012.4～2015.4
3	Mr. Bulao Christian Rey Fernandez	フィリピン	㈱平井工業	2012.4～2015.4
4	Mr. Muhamad Sayyidi Bin Saadun	マレーシア	㈱大洋製作所	2012.6～2015.6
5	Mr. Muhammad Asri bin Ayub	マレーシア	㈱大洋製作所	2014.1～2017.1
6	Mr. Mohd Faisal bin Ramly	マレーシア	㈱大洋製作所	2014.1～2017.1
7	Mr. Muhammad Shazwan Bin Kamarulshah	マレーシア	㈱大洋製作所	2015.3～2018.3
8	Mr. Muhammad Firdaus Bin Ibrahim	マレーシア	㈱大洋製作所	2015.5～2018.5
<b>機械保全(1名)</b>				
9	Mr. Marmeto Nazir Jason Barbosa	フィリピン	豊田汽缶(株)	2015.8～2018.8
<b>建設機械施工(7名)</b>				
10	Mr. Muhammad Yusri Bin Razali	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
11	Mr. Muhammad Siddiq Bin Robani	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
12	Mr. Muhammad Nasrullah Muhaimin Bin Kamsis	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
13	Mr. Muhamad Aimi Bin Mhd Sakri	マレーシア	中村建設(株)	2015.2～2018.2

## 人材育成事業

14	Mr. Khairulmiftah Bin Kaspin	マレーシア	中村建設(株)	2015. 2～2018. 2
15	Mr. Mohamad Anuarul Amin Bin Mohamad Azmi	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2016. 3～2019. 3
16	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2016. 3～2019. 3
<b>塗装(9名)</b>				
17	Mr. Kahawatte Pallegedara Upali Darmawardana	スリランカ	(株)鈴木サビース工場	2012. 8～2015. 8
18	Mr. Murillo Eduardo Jr. Nessia	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
19	Mr. Guardiano Mhil Nillama	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
20	Mr. Tagura Aristotle Bobila	フィリピン	(株)鈴木サビース工場	2014. 8～2017. 8
21	Mr. Muhammad Nafis Bin Abdul Aziz	マレーシア	(有) ワイルドワークス	2015. 3～2018. 3
22	Mr. Honor Daryl Alacar	フィリピン	(株)鈴木サビース工場	2015. 8～2018. 8
23	Mr. Esmalla Wendell Mark Guanzon	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
24	Mr. Villanueva Joemar Jacosalem	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
25	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	(株)山陰オアシス	2016. 1～2019. 1
<b>冷凍空気調和機器施工(6名)</b>				
26	Mr. Mohamad Syawal Bin Khalid	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2013. 4. ～2016. 4
27	Mr. Kairul Azwa Bin Mohd Sidik	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2013. 4. ～2016. 4
28	Mr. Indra Irawan Bin Idrus	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2015. 2～2018. 2
29	Mr. Muhammad Qamarul Huzaifah Bin Mohd Faizal	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2015. 3～2018. 3
30	Mr. Mohd Afifi Bin Md Jamil	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2016. 2～2019. 2
31	Mr. Mohammad Fakhirin Bin Mohd Taha	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2016. 2～2019. 2
<b>溶接(13名)</b>				
32	Mr. Mabilog Jurry Smith Dignanoy	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
33	Mr. Tabligan Jerald Mansueto	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
34	Mr. Aujero Aldwin Alincastre	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
35	Mr. Montero Joel Napolis	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
36	Mr. Dik Dik Priyatna	インドネシア	(株) 三友金属	2015. 8～2018. 8
37	Mr. Burhanuddin	インドネシア	(株) 三友金属	2015. 8～2018. 8
38	Mr. Duenas Lenard Hillana	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
39	Mr. Ganaba Gerard Dimitri	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
40	Mr. Guanzon Norman Casaljay	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
41	Mr. Papa Andre San Pedro	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
42	Mr. Dacumos Reychon Villegas	フィリピン	(株)ジェイテクノス	2015. 11～2018. 11
43	Mr. Valencia Rushline Jimenez	フィリピン	(株)ジェイテクノス	2015. 11～2018. 11
44	Mr. Cuizon Reynaldo Jr. Yangyang	フィリピン	(株)マイテック	2015. 11～2018. 11
<b>鉄筋施工(8名)</b>				
45	Mr. Gallos Angelo Lozada	フィリピン	(株)ノセブレコン	2013. 6～2016. 6
46	Mr. Purisima Albert Millan	フィリピン	(株)ノセブレコン	2013. 6～2016. 6
47	Mr. Quiachon Mark Sinugbahan	フィリピン	(株)ノセブレコン	2013. 6～2016. 6
48	Mr. Regunton Dennis Zales	フィリピン	(有) 明星工業	2014. 1～2017. 1
49	Mr. Dupaan Andrew Romero	フィリピン	(株)ノセブレコン	2015. 12～2018. 12
50	Mr. Famoso Shaison Quinto	フィリピン	(株)ノセブレコン	2015. 12～2018. 12
51	Mr. Ginete Jason Rey Dolloso	フィリピン	(株)ノセブレコン	2015. 12～2018. 12
52	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	(有) 明星工業	2015. 12～2018. 12
<b>かわらぶき(2名)</b>				
53	Mr. Syukur Andriawan	インドネシア	(有)本石産業	2014. 1～2017. 1
54	Mr. Cokro Mulyono	インドネシア	(有)本石産業	2014. 1～2017. 1
<b>左官(4名)</b>				
55	Mr. Babida Ceasar Biscarra	フィリピン	(有) 明星工業	2014. 1～2017. 1
56	Mr. Calanas Pedro Jr. Taladua	フィリピン	(株)ノセブレコン	2014. 8～2017. 8
57	Mr. Beltran Joseph Siddayao	フィリピン	(株)ノセブレコン	2014. 8～2017. 8
58	Mr. Crame Ronald Pacujan	フィリピン	(株)ノセブレコン	2014. 8～2017. 8

めっき(2名)				
59	Mr. Abdul Qaiyum Bin Ab Rahman	マレーシア	神谷理研(株)	2014.2~2017.2
60	Mr. Mohammad Arief Faisal Bin Najib	マレーシア	神谷理研(株)	2014.2~2017.2
鋳造(6名)				
61	Mr. Quidato Jerson Jimenez	フィリピン	白龍産業(株)	2014.8~2017.8
62	Mr. Dajay Mike Lumapay	フィリピン	白龍産業(株)	2014.8~2017.8
63	Mr. Gemelo John Michael Pingcas	フィリピン	白龍産業(株)	2014.8~2017.8
64	Mr. Magtuba Alfredo Jr. Puyod	フィリピン	白龍産業(株)	2015.9~2018.9
65	Mr. Gonzales Edson Acosta	フィリピン	白龍産業(株)	2015.9~2018.9
66	Mr. Toledo Jhescer Remen	フィリピン	白龍産業(株)	2015.9~2018.9
型枠施工(8名)				
67	Mr. Dedy Rajab Kusuma	インドネシア	(株)神組	2015.3~2018.3
68	Mr. Ali Mufid	インドネシア	(株)神組	2015.3~2018.3
69	Mr. Munawar	インドネシア	(株)神組	2015.3~2018.3
70	Mr. Syahrol Ezmer Bin Abdul Razak	マレーシア	三登建設(株)	2015.5~2018.5
71	Mr. Mohamad Shazwan Bin Rosman	マレーシア	三登建設(株)	2015.5~2018.5
72	Mr. Arman	インドネシア	(株)神組	2016.3~2019.3
73	Mr. Batsing Zahama	インドネシア	(株)神組	2016.3~2019.3
74	Mr. Rendra Hidayat	インドネシア	(株)神組	2016.3~2019.3

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目	国別					合計
	バングラデシュ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	スリランカ	
印刷	1					1
機械加工			5	2		7
機械保全				1		1
建設機械施工			7			7
塗装			1	7	1	9
冷凍空気調和機器施工			6			6
溶接		2		11		13
鉄筋施工				8		8
かわらぶき		2				2
左官				4		4
めっき			2			2
鋳造				6		6
型枠施工		6	2			8
合計	1	10	23	39	1	74

### 3. 外務省国際開発協力関係民間公益団体補助金による事業

開発途上国において、地球温暖化による異常気象、「食の安全」に関する問題などについて、今まで以上により身近な問題として認識が深まっている。それと同時に、オイスカが今まで進めてきた環境に配慮した持続可能な有機農業の普及、指導及び人材育成活動が益々重要性を増し、様々な国より農業分野における人材育成やプロジェクト立ち上げの要請がきている。

各国からの要望、また各農村地域からの期待に答えていくためにも、より多くの人材を招聘し、有機農業を基本とした知識の習得、指導力を身につけてもらい、幅広い見識とリーダーシップを持って指導力を発揮できることを目的に本研修を実施した。

今回は約10ヶ月という短い期間であったが、講義・実習とも十分な時間をとることができた。訪日前より日本語の事前学習をしており日本語能力も高かったため、座学や視察・見学でも多くの知識を得ることができた。技術研修では3ヶ月間「農業、調理、食品加工」の基礎実習を行い、帰国前3ヶ月はアクションプラン（「帰国後の行動計画」）に合わせ「農業」または「調理と食品加工」から1つを選択し、より専門的な知識を身につけることができた。

帰国後は所属機関等で地域の農村社会の発展のため、アクションプランを実行していく予定である。この研修を行うことにより農村での波及効果も期待されることから、本事業では国際協力・技術協力の観点において十分な成果を得られたと評価できる。

本年度は外務省**国際開発協力関係民間公益団体補助制度**で下記のコースに4名の研修員を平成27年3月26日から平成27年12月19日の期間受け入れた。

#### 【国内における国際協力関連事業 四国研修センター】

	氏 名	国 名	期 間
1	Ms. Dinar Matanari	インドネシア	2015.3～2015.12
2	Ms. Wai Wai Aung	ミャンマー	2015.3～2015.12
3	Mr. Trube Rommel Marceliana	フィリピン	2015.3～2015.12
4	Ms. Raphael Belinda Evin	PNG	2015.3～2015.12

#### 研修内容

- ・有機農業（野菜・稲作）、平飼い養鶏の応用技術を習得する。
- ・流通（農業協同組合・卸売市場の見学、篤農家での研修等）を含めた日本の農業の現状を知る。
- ・余剰農産物を使用した自国のニーズに合った加工技術を習得する。また販売方法を学ぶ。
- ・食品学の知識を深めることにより調理で使用する時の食材の調理方法、保存方法の技術を習得する。
- ・実用的な栄養の基礎を習得することにより、自国の健康状態にあった調理方法を習得する。
- ・生活環境に身近な環境問題を理解し、具体的な活動の実施を通じて、自国への適用可能な手段を身につける。

#### 4. 独立行政法人 国際協力機構（JICA）受託研修事業

独立行政法人 国際協力機構受託研修業務

独立行政法人国際協力機構より研修員受託事業を実施した。四国研修センターでは、青年研修として「アフリカ/農村振興コース」の短期研修を実施した。JICAとの緊密な連携により当初計画の通り研修業務が実施された。

「農村振興」「地場産品」「エコツーリズム」を課題に揚げ、専門家から知識を得ることができた。座学だけでなく視察や実習を通して研修員は理解を深めることができた。研修終了時には技術討論会を開催し、帰国後の具体的な計画を立て地域社会での活動に結び付けていく為、研修員の総括評価として現地で有効な技術を取入れた技術レポート（アクションプラン）を作成した。

1)平成 27 年度(地域別研修) 「2015 年度 青年研修 アフリカ/農村振興コース (B)」

- (1) 研修期間：平成 27 年 8 月 3 日～平成 27 年 8 月 20 日
- (2) 研修場所：公益財団法人 オイスカ 四国研修センター
- (3) 研修員名

No.	氏 名	国 名
1	Ms.AZO'O NLOM EPSE MPENEKOUL Cecile Anne M.	カメルーン
2	Ms.LEMA Kenu Abate	エチオピア
3	Mr.RORISA Kassahun Mengigso	エチオピア
4	Mr.WODAJO Girma Tamiru	エチオピア
5	Mr.SAIDYLEIGH Yusupha	ガンビア
6	Ms.JAITEH Isatou Yamundow	ガンビア
7	Ms.SACKIE Tina	リベリア
8	Mr.TUGBAH JR Arthur Franco	リベリア
9	Ms.WALLEY Sarah Nyumadi	リベリア
10	Ms.KABAHAGUZI Annet	ウガンダ
11	Ms.NASSIWA Juliet	ウガンダ
12	Mr.TALENGA Musa	ウガンダ
13	Mr.AYEBAZIBWE Alison	ウガンダ

#### 5. マラ公団受託事業

マレーシア政府系機関マラ公団による要請で受託事業を実施した。中部日本研修センター、四国研修センター及び西日本研修センターにおいてマレーシアの高校生を対象にホームステイプログラムを実施。一昨年度より開始したこの取り組みは、日本語や文化、規律等を学ぶとともに有機農業などセンターでの活動も盛り込まれ充実した内容となった。

平成 27 年度 マレーシア Malaysia Japan Industrial Institute (MJII)  
ホームステイプログラム

- (1) 実施期間：①平成 27 年 6 月 5 日～6 月 11 日  
②平成 27 年 12 月 3 日～12 月 9 日  
③平成 27 年 12 月 18 日～12 月 24 日
- (2) 実施場所：①四国研修センター、②中部日本研修センター、③西日本研修センター
- (3) 学生数（引率教員含む）：①18 名、②20 名、③12 名

### 6. 日本青年育成事業

当法人は長年、人材育成を通じて国づくりの基盤である開発途上国における農村地域の発展に寄与してきている。しかし近年わが国の産業構造の変化に伴い、農業分野での若手人材が大きく減少しており、国際協力の分野で活躍が期待できる人材の確保が著しく困難な状況となっている。

そうしたなか、将来この分野での貢献を目指そうとするわが国の数少ない若者たちの育成は欠かすことのできない喫緊の課題である。

本事業では、国内外で推進する国際協力活動及び関連業務（活動）を 1 年間の体験を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国 NGO、さらには広く国際貢献を担う人材の養成を行った。

- 1) 対象者：2 名（女性）
- 2) 研修期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
- 3) 名簿

氏名	性別	研修場所
増留 愛香音	女	中部日本研修センター、四国研修センター、東京本部、ミャンマー研修センター
川村 康恵	女	西日本研修センター、中部日本研修センター、東京本部、インドネシア・スカブミ研修センター

## 4. 啓発普及事業

### 総括

オイスカの創業者である中野 與之助は、日本中が経済成長まっしぐらに突き進んでいる時代に日本の将来を見据えながら開発途上国の真の自立を目指す地域開発に乗り出した。その動きに賛同する人々が全国に現れ、この活動を支援するため各地に「支局」が誕生した。最初の支局は1975年（昭和50年）に設立され、40周年を迎えました。当初の支局の役割は、国際情勢をはじめとする国際協力の現場について会員の皆さんに伝え、資金的に海外プロジェクトを支えることにあった。海外の研修センターの建設に並々ならぬ尽力をしてきた支局もある。こうした一連の活動がオイスカの原点であり、活動を理解して下さる会員の皆さんが全国に広がっている理由でもある。

一方で、オイスカが現在掲げているテーマである「ふるさとづくり」は、地球上に生きる人間や他の生命がバランスを保ちながら共生する持続可能な世界を作ることである。この「ふるさと」を守り育てるために国内においても、森林保全をはじめとする活動を開始し、1990年代からはオイスカの国内組織が中心になり「山・林・SUN」体験活動などの植林活動、2000年（平成12年）から全国の学校林活動、2007年からは協働事業の代表的な「富士山の森づくり」を開始し、多くの関係者との協力で実施してきた。この手法は「順応型管理」として各方面からの評価も受けた。こうした動きが東日本大震災復興支援の海岸林再生プロジェクトにつながっている。

また、オイスカ・インターナショナルのネットワークを活かした国際会議を開催し、在日各国大使館関係者や国際協力機関の方との情報や意見交換に努めている。こうした日頃からのコミュニケーションを通じて、オイスカが進める国際協力活動に理解をいただいている。特記事項として、外務省より助成を受け「遺贈寄付市場におけるNGOの優位性に関する調査」事業を実施した。本事業では、日本の国際協力NGOが遺贈や相続財産による寄付先として広く受け入れられるようになるための方法を調査し、その成果をシンポジウム等で発表した。

引き続き、国内での啓発普及事業が海外での国際協力活動、ひいては世界がオイスカの目指す「ふるさと」に近づくように多岐に渡る分野に働きかけをしていきたい。

### 1. 国内事業

「企業の森」での森林整備等の実践的な取り組みを含め講演会・セミナー等の開催、森のつみ木広場、海外ボランティア派遣といった多岐にわたる活動に、一般市民および民間企業等の参画を呼び掛け、各地で活発な活動を展開した。こうした活動は全国各地にある14の支部と47のオイスカ活動の促進を主な目的とする支援組織が中心となり実施している。こうした拠点は、国際協力やグローバルな課題を、広く一般市民に知っていただく講演会・セミナー、海外派遣の機会を作るうえで重要な役割を果たしている。

1) 講演会・セミナー等の開催

組織名	事業名	期日	参加者数	場所
本部	学校の森・子どもサミット	8月3日～5日	216名	岡山大学 岡山県西粟倉村
	遺贈と国際協力 NGO の在り方を探る	2月25日	90名	日本記者クラブ・プレスセンターホール
北海道支部	チャリティーディナーコンサート	12月14日	101名	札幌市
宮城県支部	活動報告会	6月16日	59名	ホテルグランテラス仙台
	新春懇談会	1月12日	65名	
茨城推進協議会	グローバルフェスタ いばらき 2015 in 水戸	5月10日	多数	水戸市南町自由広場
神奈川推進協議会	会員総会・講演会	6月25日	8名	関内フューチャーセンター
山梨県支部	オイスカ活動報告会	6月10日	50名	山梨県甲府市
富山県支部	支部設立 40 周年記念大会 記念講演 駐日インドネシア大使閣下	11月16日	180名	富山電気ビルディング
	活動報告会 勉強会	7月7日	80名	富山電気ビルディング
愛知県支部・中部日本研修センター	2015 オイスカデー (国際交流フェスティバル)	10月10日	450名	扶桑文化会館
	愛と絆の講演会	12月4日	100名	鴛鴨区民会館
	フィジー・インドネシア報告会	12月12日	30名	オイスカ中部日本研修センター
	ミャンマー大使講演会	3月25日	50名	愛知県議会議事堂
オイスカ中部日本後援会	春の子ども英語キャンプ	3月28日～29日	20名	オイスカ中部日本研修センター
		オイスカ活動報告会	11月19日	60名
岐阜県支部	支部設立 40 周年記念行事	10月24日	300名	岐阜市内
広島県支部	広島県支部の集い報告会と講演会	5月28日	160名	広島国際会議場
四国支部	国際協力講演会	4月23日	130名	オークラホテル丸亀
	国際協力講演会	10月9日	200名	ホテルパールガーデン
高松推進協議会	第5回総会開催記念講演会	5月28日	50名	オークラホテル高松
	海岸林再生プロジェクト活動報告会	8月6日	15名	アイパル香川
香川東推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会 (長尾ライオンズクラブ例会)	8月7日	35名	さぬき市
綾川推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会	8月8日	20名	オイスカ四国研修センター
	国際協力講演会	11月28日	100名	綾川町綾南農村環境改善センター



徳島県推進協議会	国際協力講演会	11月27日	15名	徳島県国際交流協会
	第9回エスニック料理講習会	2月10日	15名	とくしま生協・コープ住吉調理室
四国電力総連	海岸林再生プロジェクト活動報告会	8月8日	20名	高松市
愛媛県支部	第32回愛媛の集い	3月4日	145名	いよてつ高島屋
西日本支部	体験農園	4月18日	20名	オイスカ西日本研修センター
	体験農園	12月5日	20名	
	井戸掘り講習	2月23日	10名	福岡市早良区

## 2) 資料の作成・配布、インターネットでの情報配信

### ①月刊「OISCA」発行

年間11回発行（毎月約6200部に加え8・9月の合併号は15,000部。年間合計約77,000部）し、会員のほか、公官庁や各種団体など約300カ所に送付。

### ②ウェブサイトでの情報発信

月刊誌で取り上げたニュースを最新情報として配信したほか、全国のイベント・ボランティア情報の告知を行った。四国研修センターのホームページが完成した。

また、イベント・ボランティア情報については、外部の情報サイトでも情報を発信。特に今年度利用頻度を高めたのは、Activoという学生へのボランティア情報提供サイトで、これによりボランティア・インターン参加者を増やすことができた。

### ③メールマガジンの発行

毎月第2・4金曜日に各種募集情報を中心とした最新情報を掲載したメールマガジンを配信。配信方法および読者数は下記の通り。

- \*まぐまぐ 910名
- \*メルマ 472名
- \*メール 425名

### ④Links for goodによる広告配信

yahooが社会貢献活動として立ち上げたLinks for goodの広告を2013年12月より無料で配信できることになり、イベントの告知などの広告を配信。

## 3) 森林整備活動

オイスカが進める森林整備活動は多くのステークホルダー（オイスカ支部や推進協議会、地元のNPO、行政、企業、研究機関等）と協働して実施し、植栽、枝打ちや間伐といった森林整備作業を実施するほか、林業を支えるために間伐材の利用を促進している。

① 企業等との協働による森林保全活動

企業等と共に進める森林保全活動は地元の林業者による施業を推進するとともに、社員のボランティア活動や研修としてその現場を活用することで、多くの方々に体験を通して現在の森林や地域の抱える課題を理解していただく機会となっている。

また山村地域の課題に直接触れていただくことで、各企業活動の中に活動地域の材の活用、耕作放棄地の活用等を取り入れ、森林保全に留まらない地域活性化に繋がる取り組みや、地域の産業に貢献する事業へとひろがりをみせている。一例として、オイスカでは水源地である山間地と都市部の産官民が集い、川上から川下まで一貫した協働体制を構築し、都市のニーズに沿う木材製品を開発する「やまなし水源地ブランド推進協議会」に参画している。その活動が評価され、ウッドデザイン賞 2015 奨励賞（審査委員長賞）を受賞した。

森林保全活動等に参加した多くの企業関係者に、広くオイスカの活動や理念を知っていただくきっかけにもなっており、海外事業、震災支援事業等、新たな支援へも繋がった事例も出てきている。森林保全活動を通じてオイスカの啓発普及活動にもつながっているといえる。

事業名	実施月	活動内容	活動場所
富士山の森づくり	5～10月	補植、下刈り、除伐 獣害防止ネットの補修	山梨県鳴沢村
	6月	子どもたちへの環境教育	〃
甲州市・オルビスの森づくり	4, 10月	植栽、補植、下刈り、間伐、材の活用、環境教育	山梨県甲州市
ホンダの森づくり（小菅）	5, 9月	獣害防止ネットの設置、歩道整備	山梨県小菅村
ホンダの森づくり（寄居）	6, 11月	補植、下刈り、蔓切り 除伐、歩道整備	埼玉県寄居町
ライオン山梨の森づくり	4, 5, 7, 11月	植栽、下刈り、間伐、木柵設置、新入社員研修	山梨県山梨市
サミットの森	10月	除伐、枝打ち、間伐、歩道整備、材の活用、新入社員研修	山梨県丹波山村
東急ホテルズの森	4, 10月	獣害防止ネットの補修、間伐、生育調査	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	8, 11月	間伐、歩道整備、材の活用	山梨県道志村
パジェロの森	4, 7, 11月	植栽、下刈り、除伐、間伐、歩道整備、整地作業、新入社員研修	山梨県早川町
「魚つき保安林」保全プロジェクト	6～2月	森林調査、啓発活動	神奈川県真鶴町

## ②全国各組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
北海道支部	北海道 OISCA の森づくり 第19回北海道「山・林・SUN」体験「子供の森」 計画	6月20日(春期)	22名	当別町(道民の森)
		8月6日(夏期)	22名	当別町(道民の森)
		10月10日(秋期)	77名	千歳市支笏湖(烏柵舞の森)
宮城県支部	学校林校外学習	5月15日	109名	仙台市立三条中学校
首都圏支部	「夕やけ小やけふれあいの里」森林整備活動	5月15日 9月25日	15名	東京都八王子市
	みどりの感謝祭 みどりとふれあうフェスティバル	5月10日,11日	30名	東京都港区
	「海の森」植樹活動	11月15日	65名	東京都江東区
	築地市場「ゴミ0の日」ボランティア清掃活動	5月25日	10名	東京都中央区
神奈川推進協議会	真鶴町お林整備活動	8月4日,12月6日の年2回	延べ6名	真鶴町お林
	よこはま国際フェスタ2015	10月10日,11日	延べ7名	横浜市中区、象の鼻パーク
	神奈川県、森林再生パートナー制度への参加	11月		
首都圏支部	「夕やけ小やけふれあいの里」森林整備活動	5月15日 9月25日	15名	東京都八王子市
	みどりの感謝祭 みどりとふれあうフェスティバル	5月10日11日	30名	東京都港区
	「海の森」植樹活動	11月15日	65名	東京都江東区
	築地市場「ゴミ0の日」ボランティア清掃活動	5月25日	10名	東京都中央区
山梨県支部	オギノの森(下草刈り)	7月9月	多数	山梨県甲府市
	子ども森林教室	10月	22名	山梨県鳴沢村
	富士山の森づくり	5月	190名	
	丹波山崩壊地整備事業	6月	多数	山梨県丹波山村
長野県支部	富士山の森づくり	5月30日	4名	山梨県
	海岸林ボランティア	10月16日	5名	宮城県
	松本地区育樹祭	10月20日	4名	安曇野市
富山県支部	猿倉山 里山保全森づくり活動	6月6日	50名	富山市 猿倉山山麓
静岡県支部	清水区大内地区放置竹林の里山整備	4月5日	50名	静岡市清水区大内地区
	富士山の森づくり活動	5月30日	12名	山梨県南都留郡鳴沢村

愛知県支部	オイスカの森	8月2日	45名	設楽町
豊田推進協議会	海岸林再生プロジェクトボランティア活動	6月26日,27日	16名	宮城県名取市
	沖縄視察ボランティアツアー	11月5日~7日	16名	沖縄県久米島
	海岸林再生プロジェクトボランティア活動	6月26日~27日	16名	宮城県名取市
みよし推進協議会	海岸林再生プロジェクトボランティア活動	11月5日~8日	9名	宮城県名取市
関西支部	自由に乾杯フェスティバル	12月13日	65名	クレオ大阪中央
	「ふれあいの森」森づくり	5月9日 10月31日 3月26日	185名	四条畷市
広島県支部	山・林・SUN活動	7月25日	61名	北広島町
四国支部	山・林・SUN活動	11月8日	90名	尾の瀬山 (まんのう町)
高知県推進協議会	「四万十よんでんの森」体験学習	1月26日	約60名	四万十市
愛媛県支部	下刈り体験	4月30日	110名	忽那山
	下刈り体験	5月7日	135名	忽那山
	Mt. LOVE10	6月20日 8月30日 11月15日 3月27日	125名	忽那山
西日本支部	百年の森づくり	11月23日	50名	福岡県東峰村
	日田里山作り	2月5日	30名	大分県日田市
	水源の森づくり	3月21日	150名	福岡県朝倉市寺内ダム上流
北九州推進協議会	鳥がさえざる緑の回廊	3月26日	1000名	

## 4) 各種体験活動

## ①森のつみ木広場

2005年（平成17年）よりスタートした「森のつみ木広場」は、つみ木と触れ合うことを通じて、子どもたちに森や自然を身近に感じてもらうと同時に、国産材の利用を促進するといった「間接的な森づくり」を行っている。

近年、国産材の活用が推進される中、子どもたちへの環境教育の一環として関心も高くなってきており、2015年度（平成27年度）は、全国の支部・推進協議会で100回を超える広場を開催した。

教育施設やイベントで開催することが多いため、活動を通じて不特定多数のオイスカを知らない層への啓発普及活動にもつながっており、オイスカの理念を広める役割も果たしているといえる。今後も、全国組織で広く活動を展開することによって、オイスカの理解者やインストラクターとして活動を支える人材の育成にも力を入れていきたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
本部	5月11日	残堀川ふれあいイベント（東京都瑞穂町）
	7月18日, 19日	永福和泉地域区民センター 設立25周年記念センターまつり（東京都杉並区）
	10月4日	青少年のための科学の祭典（東京都小金井市）
	11月2日	中央幼稚園（東京都中央区）
	11月4日	やしお子どもふれあいフェスティバル・2015（東京都品川区）
	11月6日	甲運小学校（山梨県甲府市）
	12月12日	第25回 杉並花笠祭り（東京都杉並区）
北海道支部	6月25日	元町小学校（北海道札幌市）
	10月17日	島松コミュニティスクール（北海道恵庭市）
	2月24日	はらっぱ保育園（北海道札幌市）
宮城県支部	6月25日	子育てひろば「きらり☆」（宮城県山元町）
	8月1日	将監児童センター（宮城県仙台市）
	11月21日	舟形小学校（山形県舟形町）
	2月28日	松っ子まつり（宮城県松島町）
山梨県支部	4月20日	竜王中央保育園（山梨県甲斐市）
	5月18日	竜王南児童館（山梨県甲斐市）
	6月22日	下山小学校（山梨県身延町）
	7月21日	双葉西保育園（山梨県甲斐市）
	8月17日	敷島みなみ児童館（山梨県甲斐市）
	9月7日	松島保育園（山梨県甲斐市）
	10月18日	甲斐市わくわくフェスタ（山梨県甲斐市）
	11月7日, 8日	ラザ・エコ博（山梨県甲斐市）
	12月7日	池田幼稚園（山梨県甲府市）
	2月22日	石和あら川保育園（山梨県笛吹市）
3月9日	あら川保育園（山梨県甲府市）	
長野県支部	4月8日	波田児童センター（長野県松本市）
	6月5日	今井保育園（長野県松本市）
	9月4日	入山辺保育園（長野県松本市）

	10月3日,4日	ぼくらの学校(長野県松本市)
	10月10日	岡谷エコフェスティバル(長野県岡谷市)
	10月28日	島内児童センター(長野県松本市)
	10月29日	島内公民館(長野県松本市)
	11月4日	錦部保育園(長野県松本市)
	11月12日	島立児童センター(長野県松本市)
	11月17日	柏木保育園(長野県松本市)
	11月18日	波田児童センター(長野県松本市)
	11月24日	今井保育園(長野県松本市)
	12月4日	岡田保育園(長野県松本市)
	1月25日	錦部保育園(長野県松本市)
	2月22日	岡田保育園(長野県松本市)
富山県支部	8月22日	立山山麓音楽祭 2015 (富山県富山市)
	10月17日,18日	とやま環境フェア 2015 (富山県富山市)
	10月25日	とうぶふれあいフェスタ 2015 (富山県富山市)
岐阜県支部	5月23日	土田公民館(岐阜県可児市)
	5月24日	今渡公民館(岐阜県可児市)
	8月22日	土田公民館(岐阜県可児市)
	10月3日	春里公民館(岐阜県可児市)
	10月31日	下恵土公民館(岐阜県可児市)
	11月23日	メディコスまつりフム・ドキ・ワイワイ(岐阜県岐阜市)
	2月27日	可児市環境フェスタ(岐阜県可児市)
静岡県支部	6月11日	清水飯田小学校(静岡県静岡市)
	7月2日	安西小学校(静岡県静岡市)
	7月9日	清水小学校(静岡県静岡市)
	7月25日	豊田児童館(静岡県静岡市)
	9月10日	松野小学校(静岡県静岡市)
	9月26日	蒲原白銀児童館(静岡県静岡市)
	10月15日	蒲原西小学校(静岡県静岡市)
	11月28日	西奈児童館(静岡県静岡市)
	12月17日	大里西小学校(静岡県静岡市)
	1月16日	安東児童館(静岡県静岡市)
	1月23日	長田児童館(静岡県静岡市)
	2月13日	麻機児童館(静岡県静岡市)
愛知県支部	6月9日	柏森保育園(愛知県丹羽郡扶桑町)
	7月18日	南部公民館(愛知県犬山市)
	8月7日	南保育園(愛知県丹羽郡大口町)
	8月28日	西保育園(愛知県丹羽郡大口町)
	9月14日	北保育園(愛知県丹羽郡大口町)
	10月28日	高雄南保育園(愛知県丹羽郡扶桑町)
	2月2日	小鹿保育園(愛知県江南市)
	2月16日	扶桑幼稚園(愛知県丹羽郡扶桑町)
三重推進協議会	8月5日	朝日学童保育所(三重県三重郡朝日町)
	8月10日	第4回子どもフェスティバル in 四日市市文化会館(三重県四日市市)

	10月10日	久居中学校（三重県津市）
	1月9日	一ノ宮団地児童センター（三重県鈴鹿市）
	2月21日	四日市市少年自然の家（三重県四日市市）
関西支部	5月4日,5日	万博公園こどもフェスティバル（大阪府吹田市）
	10月29日	瓜破東小学校（大阪府大阪市）
	11月18日	中津小学校（大阪府大阪市）
	11月21日	東都島小学校（大阪府大阪市）
	11月26日～28日	万博ママ・マルシェ（大阪府吹田市）
	12月5日	玉造小学校（大阪府大阪市）
	12月8日	五位堂幼稚園（奈良県香芝市）
	2月12日	日東小学校（大阪府大阪市）
	3月4日	大阪教育大学附属平野小学校（大阪府大阪市）
広島県支部	4月14日	介護付有料老人ホーム エネルギアケア平和公園（広島県広島市）
	6月7日	もみのき森林公園ひろしま「山の日」県民の集い（広島県廿日市）
	9月19日	牛田総合公園（広島県広島市）
	1月23日	牛田総合公園（広島県広島市）
四国支部	7月24日	高松市環境保全推進課分室（香川県高松市）
	7月29日	中央小学校（香川県高松市）
	8月1日	高松市男女共同参画センター（香川県高松市）
	8月3日	鬼無小学校（香川県高松市）
	8月4日	牟礼南小学校（香川県高松市）
	8月17日	古高松小学校（香川県高松市）
	8月20日	夏休み親子ふれあい木工教室（高知県高知市）
愛媛県支部	10月2日	松前西公民館（愛媛県伊予郡松前町）
	10月14日	栄養寺（愛媛県伊予市）
西日本支部	7月19日	赤坂幼児教育研究会（福岡県福岡市）
	7月29日	入部小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	7月30日	西花畑小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月3日	西新小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月4日	弥生小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月5日	春住小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月6日	舞鶴小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月7日	七隈小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月10日	名島小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月12日	板付小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月17日	玉川小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月18日	照葉小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月19日	高宮小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月20日	東光小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月21日	春吉小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月24日	和白小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
	8月26日	月隈小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）
8月27日	香住丘小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）	
8月28日	壱岐東小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）	

	12月23日	当仁公民館（福岡県福岡市）
	12月24日	筥松小学校留守家庭子ども会（福岡県福岡市）

②海外ボランティア派遣

組織名	期 間	人数	訪 問 先
本 部	11月15～18日	50名	マレーシア・イスカンダル（ビジネスフォーラム）
北海道支部	3月29日～4月4日	15名	フィリピン・アブラ
茨城推進協議会	8月19～23日	15名	フィリピン・西ネグロス州
山梨県支部	8月17～22日	16名	フィリピン・西ネグロス州
富山県支部	7月19～25日	30名	スリランカ
長野県支部	2月18日～21日	15名	フィリピン・西ネグロス州
静岡県支部	5月8～15日	21名	モンゴル・ドルノゴビ
	7月30日～8月4日	21名	カンボジア
みよし推進協議会	8月24日～28日	10名	フィリピン・西ネグロス州
関西研修センター 広島県支部	7月25日～8月1日	5名	フィリピン・アブラ州
四国支部	8月4日～6日	25名	インドネシア・ロンボク島
ラブ・グリーンの会	8月21日～26日	20名	タイ・ラノー
宮崎県推進協議会	9月8日～13日	9名	パラオ
北九州推進協議会	10月9日～13日	10名	フィリピン・ミンダナオ島&レイテ島
九電ユニオン	11月14日～19日	10名	タイ・ラノー
九州電力総連	11月15日～19日	6名	フィリピン・ネグロス島

③その他体験活動（研修生との交流会など）

組織名	事 業 名	開催日	参加者数	場 所
北海道支部	「子供の森」計画 子ども親善大使受入	8月5日～8日	50名	札幌市、恵庭市・えこりん村、江別市・町村農場、当別町
宮城県支部	海外研修生のつどい	3月7日	13名	松島近郊
首都圏支部	「ゴミ0デー」ボランティア清掃活動	5月24日	14名	築地市場
	新木場清掃まつり	3月19日	8名	江東区新木場
	チャリティバザー	7月21日	多数	本部駐車場
	みどりの感謝祭 「みどりとふれあうフェスティバル」	5月11, 12日	多数	日比谷公園
	納涼夏祭り	7月27日	多数	本部駐車場
	チャリティバザー	3月8日	多数	新宿中央公園
茨城推進協議会	グローバルフェスタ 2014	5月11日	多数	水戸市内



山梨県支部	「子供の森」計画報告会	8月1日	34名	山梨県甲府市
	「子供の森」サミット in 山梨	8月2日,3日	45名	山梨県早川町
	「子供の森」計画報告会	8月1日	34名	山梨県甲府市
佐久推進協議会	子供の森体験	8月9日,10日	110名	佐久市岩月会長庭園
静岡県支部	メヒルギ祭	6月20日	多数	オイスカ高等学校
	台湾農村青年交流	10月18日～21日	4名	浜松、周智郡森町
	インド大使歓迎会	10月20日	130名	グランドホテル浜松
	県西部新春懇親会	2月6日	約55名	呉竹荘(浜松)
	天文台見学ツアー	3月5日	約20名	月光天文台など
	東日本大震災支援バザー参加	3月6日	約15名	新宿中央公園
愛知県支部	オイスカデー	10月10日	多数	扶桑文化会館
	チャリティーゴルフ大会	10月20日	135	豊田市
関西支部	子どもフェスティバル	5月4日,5日	1200名	万博公園
	かぐや竹林交流	5月3日	16名	京都府桂川河川敷
	マレーシア高校生フレンドシップ in 関西	6月4日～8日	多数	大阪府、京都市
	「子供の森」計画子どもの森親善大使交流	10月19日～22日	多数	大阪府、奈良県
	大阪マラソン海岸林支援セミナー	10月24日	50名	大阪ドーンセンター
	マレーシア UPM 大学日本語能力向上研修旅行	12月15～21日	多数	大阪・京都・奈良
	ワンワールド・フェスティバル	2月6日,7日	24000名	関西テレビ、北区民センターほか
広島県支部	四国・中部研修センター研修生の広島研修受入	11月11日,12日	14名 (内研修生11名)	広島平和記念資料館、マツダミュージアム、宮島
四国支部	海岸林再生プロジェクト現地視察・体験	5月14日～16日	25名	宮城県名取市ほか
	チャリティーゴルフ大会	3月24日	149名	高松カントリー倶楽部
高松推進協議会	環境活動展	11月11日～13日	多数	高松市・瓦町 FLAG
	「子供の森」計画お助け隊	通年	多数	主に高松市内
三豊推進協議会	交流授業	2月9日	30名	観音寺市立豊田小学校
香川東推進協議会	ミャンマー・ザヤマ小学校支援	12月17日	5名	ミャンマー
中讃推進協議会	丸亀お城祭り	5月3日～4日	多数	丸亀市

	クリスマスパーティー	12月7日	60名	オークラホテル丸亀
綾川推進協議会	ミネハハコンサート	11月28日	200名	綾川町綾南農村環境改善センター
西日本支部 (西日本研修センター)	茶摘み交流	5月23日	40名	西日本研修センター
	田植え交流会	6月13日	40名	
	大野城国際交流協会 TOMORROW 交流会	6月14日	30名	
	宮崎県農業大学校交流会	6月25日	50名	宮崎県農業大学校
	桜島中学校交流会	6月26日	100名	鹿児島・桜島中学校
	集まれ!地球体験村	7月23日~25日	50名	福岡市早良区
	福岡農業高校合宿	7月30日,31日	30名	オイスカ西日本研修センター
	朝倉光陽高校合宿	8月3日,4日	30名	
	糸田宿泊研修	9月8日,9日	20名	福岡県糸田町
	朝倉産業視察	9月17日,18日	20名	朝倉市、うきは市、東峰村
	佐賀料理交流会	9月23日、2月11日	15名	佐賀国際プラザ
	脇山稲刈り交流会	10月17日	100名	オイスカ西日本研修センター
	収穫感謝祭・秋	11月7日	1,100名	
	国際親善サッカー大会	11月22日	50名	
	壱岐小学校農業体験	12月7日,8日	40名	
	飯倉中央小学校交流会	12月10日	50名	福岡市立飯倉中央小学校
	早良高校日本文化体験	12月22日	30名	福岡県立早良高等学校
若竹保育園もちつき	1月8日	30名	福岡市・若竹保育園	
早良小学校交流会	12月9日,2月16日	100名	福岡市立早良小学校	
脇山公民館お別れパーティー	3月5日	30名	福岡市・脇山公民館	

#### ④赤ちゃん木育広場

2013年(平成25年度)より、乳幼児に木と触れ合う原体験を創出する「赤ちゃん木育広場」普及事業を開始した。国産材を活用した木製おもちゃで乳幼児が遊ぶ広場を開催し、併せて保護者に対して国産材利用の意義を啓発することを目的としている。2015年度(平成27年度)はサミット(株)の支援を受けて中野区内の10団体・個人、また5つの区関連施設に対して、同広場を開催するための「赤ちゃん木育おもちゃセット」の寄贈やその活用のための研修を行い、各団体を通じて「赤ちゃん木育広場」の開催を促進した。同セットにはサミット(株)が支援する山梨県丹波山村の森林整備による木材も活用している。結果、中野区内で97回の「赤ちゃん木育広場」が開催され、3,083名の親子が参加した。

## 中野区内「赤ちゃん木育おもちゃセット」の寄贈先団体等一覧

参加団体・個人 一覧		中野区関連施設	
1	オアシスなべよこ	1	U18 プラザ上高田
2	小澤宏之・小澤恵美子	2	U18 プラザ中央
3	上鷺宮区民活動センター運営委員会	3	城山ふれあいの家
4	特定非営利活動法人 上高田パワーズ	4	聖オディリアホーム乳児院「集いの 広場」
5	特定非営利活動法人 すみれの庭	5	ぴよぴよひろば
6	帝京平成大学 プリプリキッズ・ユニバ		
7	ドロップイン ほっとほっと		
8	特定非営利活動法人 中野こども空間		
9	ベビママサロン		
10	やはたみずのとう幼稚園		

## 5) 東日本大震災復興支援事業

### ①東日本大震災長期復興支援 「海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」

2011年(平成23年)3月11日の東日本大震災で壊滅的被害を被った名取市沿岸の海岸林約100haの復興を行うため、被災農家で組織された「名取市海岸林再生の会」と連携・協力して事業に取り組んでいる。具体的には、国の復興計画に沿いながら、県・市とも協定を結んだ上で復興再生に必要な苗木の育苗、海岸への植栽、下刈り等の保育まで一貫施業を担う。平成23年から10ヵ年の計画で、名取市民の「生活インフラ」として海岸林を再生させるべく、被災農家の雇用と生計支援も伴う形でプロジェクトを実施している。

主な実施内容：

宮城中央森林組合作業班・「名取市海岸林再生の会」・諸関係者への造林講習会を経て、4月21日より植栽を開始。連休に入る前の4月28日に完了。5月23日には、名取市民・宮城県民を最優先に第2回植樹祭を開催し、約500名が2haに10,000本を植栽。その後、ボランティア受け入れを本格的に開始。雇用数・ボランティア来訪数ともに、大規模事業として展開した。関係者の尽力はもちろん、天候に恵まれたこともあり、申し分のない活着率・生育率を維持した。好成績は低コストにつながり、育苗部門・造林部門ともに極めて順調に展開した。

植栽面積：

海岸林	7.90ha (市有林)	*春植え
	0.30ha (市有林)	*秋植え
内陸防風林	1.62ha (共有林)	⇒今年度追加協定
合計	9.82ha	

\*追加協定により、当プロジェクトの整備協定総面積は **94.74ha** に増えた

植栽本数(2015年(平成27年)に自家生産で出荷した苗木数)：

\*生育率 99%

精英樹クロマツ普通苗	23,770本	
抵抗性クロマツコンテナ苗	20,760本	
抵抗性アカマツコンテナ苗	3,750本	*岩手県産、内陸防風林秋季補植
抵抗性アカマツ普通苗	2,650本	*岩手県産 内陸防風林用
広葉樹	304本	*ウワミズザクラ、オオシマザクラ、ケヤキ
合計	51,234本	

播種量： クロマツ 1.68kg (89,856粒) \*すべてコンテナ播種。発芽率 93%

- ・宮城県産 抵抗性クロマツ 0.65kg (30,072粒)
- ・宮城県石巻市網地島産 精英樹クロマツ 0.14kg (9,432粒)
- ・宮城県産 精英樹クロマツ 0.25kg (10,344粒)
- ・香川県産 抵抗性クロマツ 0.12kg (6,528粒)
- ・岡山県産 抵抗性クロマツ 0.57kg (33,480粒)

広葉樹（気仙沼産ツバキ） 3kg（2,490 粒）＊内陸防風林用

床替え：

精英樹クロマツ	4,720 本
抵抗性クロマツ	3,100 本
挿し木抵抗性クロマツ	1,000 本
合 計	9,188 本

2年生コンテナ苗：

抵抗性クロマツ	26,318 本
精英樹クロマツ	19,855 本
抵抗性アカマツ	16,374 本
合 計	62,547 本

＊4年連続、県内得苗率トップ。根元径が太く抜群の質を誇る

＊2015年度(平成27年度)全国山林種苗品評会に宮城県代表で出品

雇用について：

総雇用量	1,400 人	＊育苗・植栽・保育・階段設置工など
ボランティア	1,691 人	＊8時間/日 管理面積 26ha
視察	478 人	＊うち海外から 累計 55 カ国 208 人
活動報告会・講演会	29回・4,890 人	
写真展（協力：㈱ニコン）	5 回	
国内メディア紹介・掲載	49 回	
海外向けメディア紹介	1 回	

その他特記事項：

2015年(平成27年)10月25日開催の第5回大阪マラソンの寄付先団体に選ばれる。26名のオイスカチャリティランナーや支援者、関係者の皆さまのご協力が多額のご寄附が集まった。

寄附金総額 8,470,650 円

(内訳 大阪マラソン事務局 5,376,118 円・チャリティランナー 3,094,532 円)

② 日本大震災被災地域における「森のつみ木広場」活動

東日本大震災により生活に制限を強いられている子どもたちの心を開放する場、自然とふれる場の提供。また広場を通じて地域の人たちとのつながりを感じてもらうことを目的として、2011年（平成23年）より被災地域における「森のつみ木広場」活動を開始。また2012年（平成24年）からはオルビス（株）の支援を受け、これまで継続的に開催をしている。

2015年度（平成27年度）は主に保育園等、子どもたちの教育に関わる施設や団体より依頼を受け、岩手県、宮城県、福島県の子どもたちに「森のつみ木広場」のワークショップを合計11回実施した。開催にあたっては地元自治体、NPO等の協力を得ながら実施しており、地元の人たちの手で開催できるような体制づくりをしている。

開催日	開催先
8月7日	相馬こどものみんなの家(福島県相馬市)
8月7日	相馬市中央児童センター(福島県相馬市)
8月19日	子どもの心と身体の成長支援ネットワーク主催 ニコニコキャンプ【福島県の放射能汚染の影響が心配される地域の子どもたちを対象としたキャンプ】(栃木県那須塩原市)
9月16日	双葉保育園(宮城県気仙沼市)
10月24日	NPO 法人オンザロード ロングビーチハウス (宮城県石巻市)
10月26日	おさなご幼稚園 (岩手県大槌町)
10月27日	前沢保育所 (宮城県気仙沼市)
10月28日	牡鹿地区保育所 (宮城県石巻市)
1月6日	階上保育所(宮城県気仙沼市)
1月7日	波路上保育所(宮城県気仙沼市)
3月22日	みんなの唐丹児童館 (岩手県釜石市)

## 2. 国際交流・連携促進

### 1) 国際会議等の開催

#### ① 「富士山の森づくり」在日各国大使館関係者との活動理解促進

開催日：2015年（平成27年）5月30日（土）

会場：山梨県鳴沢村

成果：

海外で取組んできた地域開発などで関係のある在日各国大使館から大使を含めて3カ国6名の参加を得て実施した。当日は、シカの食害を防ぐためにシカ害対策ネット張りを行った。森林保全活動の実際の作業に参加しながら交流を図る機会を通じて、オイスカの取り組みが環境保全活動への理解促進に繋げることができた。

#### ② 「環境教育を基盤とした青少年のふるさと作りに関する国際会議」

開催日：2015年（平成27年）10月6日（火）～8日（木）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室（東京都・代々木）

出席者数：16カ国66名

成果：

地球上の様々な場所で発生している自然災害などの課題に対して、持続可能な取り組みを進めていくための具体的な行動を促すことを目的とした国際会議を実施し、各国からの参加者と共に議論を行った。11月に開催が迫るアジア太平洋青年フォーラムについて、これまでの成果をふまえて更に南米などの関係者を参加者に加えてグローバルな展開にすること、その実施に向けてこれからの主役となる若い世代をターゲットとして進めていくことが提案された。

また、オイスカが進める「子供の森」計画が2016年に25周年を迎えるにあたり、環境教育を中心に据えたこの取り組みに、学校だけでなくコミュニティーや行政を巻き込んで展開していくことの必要性が唱えられ、常にプログラムを改良、発展しながら取り組んでいくことで参加者の同意を得た。同会議の冒頭には中川郁子農林水産大臣政務官、植竹利次外務省国際協力局参事官も参加者への挨拶に駆け付け、このような議論が国を横断して広がることへの期待がうかがえた。

出席者：

国名	氏名	職業
バングラデシュ	ヌルル・アラム	オイスカモンゴル事務局長
香港	陳遠華	会社役員
香港	黒田祐之進	オイスカ香港カレッジ理事長
香港	江子榮	公認会計士
香港	仇永平	写真家・美美撮影会社社長
香港	石見康雄	オイスカ香港総局事務局長
香港	陳加朗	香港総局事務局長助手
香港	エリック・チョウ	キャセイ航空マネージャー
香港	陳加朗	香港総局事務局長助手

インド	M・アラビンド・バブ	オイスカ南インド事務所所長
インド	チャンドラセカン・ナイール	南インド支局副会長、元銀行頭取
インド	クルントライル・M・カリアル	サーサイド大学学長
インド	プレムチャンド・V	グローバルイノベーション・テクノロジー社長
インド	デベンドラ・K・バーゲイト	科学大学学長
インド	アドリア・アラビンド	ボランティア
インドネシア	フェリ・ジョコ・ジュリアントノ	中小石炭会社鉱山組合会長(農業省外郭団体)
インドネシア	ルディ・グナワン	ガルト県知事
インドネシア	ディッキー・アリサルファ	オイスカインドネシア総局会員
インドネシア	ダダン・アリエ・ダルヤナ	オイスカインドネシア総局ガルト担当
インドネシア	ジャジャト・ダラジャト	ガルト県職員
インドネシア	ウウ・セプディン	ガルト県職員
日本	中野 良子	オイスカ・インターナショナル総裁
日本	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授
日本	中野 利弘	公益財団法人オイスカ理事長
日本	岡崎 昌三	オイスカ関西支部会長
日本	中野 悦子	公益財団法人オイスカ会長
日本	永石 安明	公益財団法人オイスカ事務局長
日本	木附 文化	(公財)オイスカ ミャンマー駐在代表
マレーシア	イブラヒム・B・アフマッド	MARA 公団理事長
マレーシア	ダルルイフサン・アブドゥル・ハミド	クアラルンプール大学製品設計製造研究所所長
マレーシア	アハマッド・バスリ・ビン・ザイナル	クアラルンプール大学教授
マレーシア	モハメド・カマル・イスマイル	MARA 公団役員
モンゴル	ツブデンドルジ・トゥメン	オイスカモンゴル総局会員
ミャンマー	ニ・ニ・ソー	ミャンマー農林業研修センター所長
ミャンマー	バウン・タン	ミャンマー農林業研修センター経理
パキスタン	ファティマ・ジャベイド	日本語教師
パキスタン	イジャズ・ムハマド	旅行社役員
パキスタン	M・イクバル・ハッサン	会社経営
パラオ	ジョニー・P・キシガワ	会社経営
パラオ	ルシオ・I・ンギライウエト	パラオ国会議員、オンブズマン
パラオ	リシエル・トリニダト	会社役員
フィリピン	ジェット・C・ロハス	会社経営・イロイロ州議会議員
フィリピン	グレゴリー・マパ	農業法人理事
フィリピン	エンリク・リム	会社経営
フィリピン	ジョセフィーナ・コルテス	フィリピン障害者協会経理
フィリピン	ジョセリン・C・ダウズ	ニュートレンド社マネージャー
フィリピン	ジェイ・E・ティンブレザ	サンス・ケイタリング社長
フィリピン	ビンセント・A・フロレス	銀行支配人
フィリピン	渡辺テルマ	バゴ研修センター研修責任者
フィリピン	マイケル・マパ	農業法人理事
フィリピン	フィリップ・E・リム	会社役員
フィリピン	マリー・スーザン・ティンブレザ	サンス・ケイタリング社長



スリランカ	A・M・C・K・B・アラハコーン	オイスカスリランカ事務所長
スリランカ	W・H・M・D・ウィジェシンハ・バンダラ	会社員
スリランカ	Y・S・C・プラサド・シルバ	会社取締役
スリランカ	ウプル・S・ワニガスリヤ	会社経営
台湾	陳國盛	石梯坪興業有限公司負責人、元教師
台湾	陳政位	台湾大学准教授
台湾	呉素貞	石梯坪興業有限公司監事
タイ	アリ・チョングリア	ビジネスマン
タイ	ブラヤット・サバンスーク	オイスカ・タイ総局スタッフ
アラブ首長国連邦	ビジャヤ・ラガバン・キーゼダス	オキシジェン・ホーム・ヘルスケアセンター所長
アラブ首長国連邦	アニタ・ビジャヤ・ラガバン	ニティン・テクニカル・サービス社理事
アメリカ	ネルダ・ベルナレス	看護師
アメリカ	アンジェラ・タイコ	オイスカ USA 総局役員
アメリカ	アレックス・ベルナレス	エンジニア

### ③ 東京フォーラム（在日外国公館関係者との国際協力推進意見交換会）

開催日：2015年（平成27年）7月23日（木） 12：00～14：00

会 場：衆議院第一議員会館 国際会議場/特別室

出席者数：12カ国 16名

成 果：

12カ国の大使および大使館関係者を迎え開催された意見交換会。オイスカから最近の状況報告として、35カ国に及ぶネットワークを通して繰り広げられている人材育成、環境保全活動などが紹介された。また、外務省の資金を活用したNGO連携支援無償がミャンマー、インドネシア、フィリピンにおいて展開されていることも共有され、各国大使館関係者と意見交換を行った。

今回参加した駐日フィリピン大使のマニエル・M・ロペス閣下などからはオイスカの自国での取り組みに謝意が示されると共に、さらなる取り組みへの期待が表明された。

### ④ 国際森林デー2016 みどりの未来「国際交流と海の森植樹」

開催日：2016年（平成27年）平成28年3月26日（土） 13：00～16：00

主催：国際森林デー2015 中央行事海の森植樹イベント実行委員会

[公益財団法人オイスカ、公益社団法人国土緑化推進機構、公益財団法人森林文化協会、特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会、林野庁]

共催：東京都港湾局

後援：外務省、国土交通省、環境省、美しい森林づくり全国推進会議、朝日新聞社、

産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK、日本民間放送連盟

協力：旅工房

会 場：第一部 東京都「海の森」（東京都江東区青海3丁目地先）

第二部 日本科学未来館

参加者数：460名

成 果：

森林の大切さを知る日として、国連が定めた「国際森林デー」の記念行事として開催し、駐日各国大使館関係者や外国人留学生、日本人の親子らが参加した。植樹を通して樹木に親しんでもらおうと企画されたもので、当日は2,600本のクスノキやケヤキ、クロマツなど18種類の広葉樹や針葉樹の苗木を2,500平方メートルの斜面に植え、国際親善交流を図った。

## ⑤国際協力の日のつどい（オイスカ創立記念日行事）

開催日：平成27年10月8日(木) 14:45～18:00

会 場：衆議院第一議員会館 大会議室/多目的ホール

参加者数：243名

成 果：

今年度は日本が政府開発援助（ODA）を開始させ60年の節目の年であり、1954年、開発途上国を支援する国際機関「コロンボプラン」加盟の閣議決定がなされた10月6日は、のちに「国際協力の日」として定められた。同時にその日はオイスカの創立記念日にあたることから「国際協力の日のつどい」を開催し、オイスカが推進している国際協力活動への理解を深め、日本のNGOとして果すべき役割について共に考える場として、現地活動報告及び、懇親会を通じて意見交換を図った。

## 2) 海外協力機関との交流

### ①マレーシアにおけるビジネスフォーラム2015

期 間：平成27年10月12日(月)～14日(水)

訪問国：マレーシア

訪問者：中野利弘、永石安明、村松明、宗像ジュイエ、清水利春、菅原弘誠

目 的：

1. ビジネスフォーラムでの日本会員企業とのセミナー参加
2. マレーシア政府及び、カウンターパート関係者等との意見交換等

成 果：

マラ公団との共催で開催し、日本からは中小企業約25名が参加した。4回目の実施となる今年は、日本企業とマレーシアの中小企業がサラワク州のクチンにおいてビジネスマッチングを行い、今後の協働の可能性について模索をしている。今年は京都府宮津市より市議会議員も参加し、マレーシアとの協力関係構築について模索するなどの動きもあった。

## 5. 収益事業

### 総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の50%を公益目的事業に資した。

### 1. 駐車場等賃貸

(1)所在地:福岡県福岡市内浜一丁目 400.00 m<sup>2</sup>

貸与先:三菱UFJリース(株)

※事業用定期借地権設定契約(平成23年7月28日から満20年)

(2)所在地:福岡県福岡市早良区 645 m<sup>2</sup>

貸与先:日本エコシステム(株)

エミュー飼育実験場として賃貸借契約(平成27年12月1日より)

### 2. 農場管理委託業務

(1)委託場所:愛知県豊田市勘八町(豊田市旧畜産センター) 58,371 m<sup>2</sup>

管理棟及び農場等の管理

委託者 :豊田市

※業務委託契約

### 3. 住宅賃貸業

(1)所在地:東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名:オイスカハウス永福町 752.20 m<sup>2</sup>(25戸分賃貸面積)

管理委託先:京王不動産(株)

※賃貸運営管理業務委託契約(平成26年11月1日～平成29年10月30日)



## 6. 組織の運営

平成 27 年度においては評議員会を 1 回、理事会を 4 回開催し、健全な運営に努めた。会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

### 1. 会議の開催

#### (1) 評議員会

##### ① 平成 27 年度定時評議員会

日時：平成 27 年 6 月 16 日(火) 12:00～13:30

場所：衆議院第一議員会館会議室

- 議題：1. 平成 26 年度事業報告及び決算書類(案)及び監査報告  
2. 平成 27 年度常勤役員報酬の総額(案)について  
3. 評議員の選任(案)について  
4. 平成 27～28 年度役員(理事)選任(案)について  
5. その他(報告事項等)

#### (2) 理事会

##### ① 平成 27 年度第 1 回 理事会

日時：平成 27 年 6 月 1 日(月) 12:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館会議室

- 議題：1. 平成 26 年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告  
2. 平成 26 年度新規賛助会員の承認(案)について  
3. 理事候補者の推薦(案)について  
4. 評議員候補の推薦について  
5. 支部会長の選任(案)について  
6. 顧問、参与の委嘱(案)について  
7. 定時評議員会の議案について  
8. その他(報告事項等)

##### ② 平成 27 年度第 2 回理事会

日時：平成 27 年 6 月 16 日(火)13:30～14:30

場所：衆議院第一議員会館会議室

- 議題：1. 代表理事、業務執行理事の互選(案)について  
2. 理事の職務権限規程別表の改正(案)について  
3. 平成 27 年度資金調達及び設備投資の見込み(案)について  
4. 参与の委嘱(案)について  
5. 新会長の推戴(案)について

##### ③ 平成 27 年度第 3 回理事会

日時：平成 27 年 11 月 10 日(火)12:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館会議室

- 議題：1. ①「特定個人情報保護に関する基本方針」の制定(案)について  
②「特定個人情報取扱規程」の制定(案)について

2. 「就業規則」の改正(案)について
3. 「ボランティア職員の就業に関する規則」の改正(案)について
4. 「顕彰・表彰規程」の制定(案)について
5. 新規の資金運用計画(案)について
6. 平成 28 年度予算編成の方針(案)について
7. 参与の委嘱(案)について
8. その他（報告事項等）

④ 平成 27 年度第 4 回理事会

日時：平成 28 年 3 月 8 日(火)12:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 平成 27 年度補正予算（案）について

①特定資産の積立・取崩計画変更（案）

2. 退職慰労金規程（案）について
3. 特定資産の新規創設（案）について
4. 平成 28 年度事業計画・予算（案）について
5. 賛助会員に関する規程（改正案）について
6. 就業規則の（一部改正案）について
7. 支部会長の交代に伴う新会長の選任（案）について
8. 60 周年史編纂委員会の設置（案）について
9. 平成 28 年度定時評議委員会の開催（案）について
10. みよし推進協議会許可承認（案）について
11. その他（報告事項等）

## 2. 役員

平成 28 年 3 月 31 日現在における当法人の役員等は次の通りである。

## (1) 評議員

No.	氏名	役職
1	荒木 光 弥	(株)国際開発ジャーナル社 代表取締役会長
2	岡田 康 男	弁護士
3	岡本 隆 之	(公財)国際文化交友会 常務理事
4	神野 重 行	三重産業(株) 代表取締役
5	篠塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
6	進士 五十八	元東京農業大学 学長
7	杉原 弘 泰	弁護士
8	常盤 百 樹	四国電力(株) 相談役
9	中村 利 雄	(公財)全国中小企業取引振興協会 会長
10	廣野 良 吉	成蹊大学 名誉教授
11	ペマ・ギャルポ	桐蔭横浜大学大学院 教授

## (2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野 利 弘	理事長
2	廣瀬 道 男	副理事長

## (3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石 安 明	専務理事
2	松井 孝 司	常務理事

## (4) 理事

No.	氏名	役職
1	新屋 敷道 保	オイスカ沖縄事務所 所長
2	杉浦 正 行	前安城市長
3	樋泉 克 夫	愛知大学 現代中国学部 教授
4	榎本 晃 章	(一社)日本動力協会 会長
5	松尾 新 吾	九州電力(株) 相談役
6	渡 邊 忠	国際連携担当

## (5) 監事

No.	氏名	役職
1	神山 敏 夫	税理士・公認会計士
2	鈴木 稔 充	弁護士

〈50 音順〉

## 組織の運営

### (6) 顧問

No.	氏名	役職
1	太田 猛彦	東京大学名誉教授
2	川口 文夫	中部電力(株) 顧問
3	小林 庄一郎	関西電力(株) 顧問
4	小林 喜光	(公社) 経済同友会 代表幹事
5	榊 原定征	(一社) 日本経済団体連合会 会長
6	佐藤 忠義	四国経済連合会 相談役
7	新木 富士雄	北陸電力(株) 相談役
8	畝川 寛	中国電力(株) 常務取締役
9	長岡 實	(公財) 資本市場研究会 顧問
10	西垣 昭	元大蔵省事務次官
11	三村 明夫	日本商工会議所 会頭

### (7) 参与

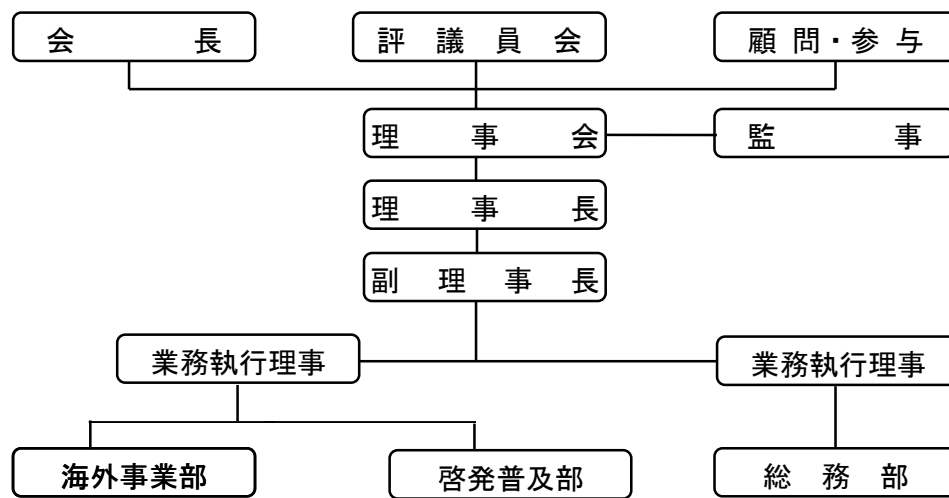
No.	氏名	役職
1	石井 淑雄	四国支部 会長
2	逢見 直人	日本労働組合総連合会 事務局長
3	岡崎 昌三	関西支部 会長
4	落合 偉洲	静岡県支部 会長
5	金丸 信吾	山梨県支部 会長
6	亀井 昭伍	宮城県支部 会長
7	木島 正芳	元東京入国管理局長
8	北村 正博	長野県支部 会長
9	黒柳 俊之	元(独) 国際協力機構 理事
10	小林 泉	大阪学院大学国際学部 教授
11	小林 孝雄	関内イノベーションイニシアティブ(株) 監査役
12	茂田 和彦	(公財) 大日本山林会 監事
13	杉下 恒夫	(一財) 国際開発機構 理事長
14	高木 廣治	広島県支部 会長
15	出口 裕康	(公財) 損保ジャパン日本興亜環境財団 専務理事
16	土井 泰彦	元文教大学教授
17	中村 陽子	NPO 法人メダカのがっこう 理事長
18	宮嶋 祥式	愛媛県支部 会長
19	深山 彬	石川県商工会議所連合会 会頭
20	村瀬 恒治	岐阜県支部 会長
21	山下 雅子	社会保険労務士
22	横山 清	北海道支部 会長

〈50音順、平成28年3月31日現在〉



3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



- ・ 海外開発協力事業(公 1)
- ・ 「子供の森」計画事業(公 2)
- ・ 人材育成事業(公 3)
- ・ 啓発普及事業(公 4)

〈平成 28 年 3 月 31 日現在〉

(2) 職員

平成 28 年 3 月 31 日現在における本法人職員は次のとおりである。

事務所	職員数
本部 (海外赴任者含む)	57
西日本研修センター	18
中部日本研修センター	13
四国研修センター	7
関西事務所	3
地方組織	29
合計	127

平成27年4月1日～平成28年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額  
会員の動向

	期首会員数			期末会員数			期首と期末の増減数		
	合計 件数	法人 個人		合計 件数	法人 個人		合計 件数	法人 個人	
本部直轄	209	38	171	206	41	165	-3	-6	3
広島県支部	84	44	40	82	42	40	-2	0	-2
北海道支部	75	40	35	68	39	29	-7	-6	0
宮城県支部	122	52	70	123	52	71	1	0	0
首都圏支部	334	155	179	324	152	172	-10	-7	-3
山梨県支部	129	56	73	120	51	69	-9	-4	-5
長野県支部	174	75	99	162	70	92	-12	-7	-5
静岡県支部	278	95	183	271	91	180	-7	-3	-4
愛知県支部	859	233	626	876	239	637	17	11	6
岐阜県支部	144	59	85	141	57	84	-3	-1	-2
富山県支部	152	73	79	150	74	76	-2	-3	1
関西支部	81	30	51	82	30	52	1	1	0
四国支部	678	164	514	712	160	552	34	38	-4
愛媛県支部	148	40	108	148	40	108	0	0	0
西日本支部	832	358	474	849	350	499	17	25	-8
合計	4,299	1,512	2,787	4,314	1,488	2,826	15	-24	39

会費入金額(千円)

	平成26年度入金額			平成27年度入金額			前年度との 差額	前年比
		法人 個人			法人 個人			
	4,770	1620	3150	5,620	2440	3180	850	117.8%
	3,150	2320	830	3,070	2240	830	-80	97.5%
	2,380	1700	680	2,180	1600	580	-200	91.6%
	5,080	3620	1460	5,090	3570	1520	10	100.2%
	16,760	13110	3650	16,180	12670	3510	-580	96.5%
	4,490	2770	1720	4,060	2550	1510	-430	90.4%
	4,680	3040	1640	4,520	2820	1700	-160	96.6%
	9,050	5800	3250	8,570	5380	3190	-480	94.7%
	23,710	12440	11270	23,480	12690	10790	-230	99.0%
	3,970	2380	1590	3,580	2080	1500	-390	90.2%
	4,910	3530	1380	5,210	3710	1500	300	106.1%
	3,250	2260	990	3,430	2540	890	180	105.5%
	18,580	7820	10760	18,890	7720	11170	310	101.7%
	3,340	1900	1440	3,160	1400	1760	-180	94.6%
	26,870	17380	9490	26,800	16500	10300	-70	99.7%
合計	134,990	81,690	53,300	133,840	79,910	53,930	-1,150	99.1%

附属明細書

平成 28 年 6 月  
公益財団法人オイスカ

なお、平成 27 年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。